

# 町田市第二次野津田公園整備基本計画



2014年5月

町 田 市





# 目 次

<b>第Ⅰ章 計画の前提</b> .....	<b>1</b>
1. 計画の背景と目的.....	1
2. 野津田公園の概要.....	2
3. 野津田公園整備計画の変遷.....	4
4. 公園をとりまく社会状況の変化.....	8
5. 上位関連計画.....	1 1
6. 野津田公園の現況.....	1 4
7. 懇談会等による検討.....	2 6
8. 計画への課題.....	3 2
<b>第Ⅱ章 基本計画</b> .....	<b>3 3</b>
1. 基本方針の設定.....	3 3
2. ゾーニング・動線計画.....	3 6
3. 公園利用者数の設定.....	4 2
4. 導入施設の検討と設定.....	4 4
5. 基本計画図 .....	5 0
6. 個別計画 .....	5 1
7. 概算工事費の算出.....	5 9
<b>第Ⅲ章 管理運営計画</b> .....	<b>6 0</b>
1. 現行の管理運営の把握.....	6 0
2. 計画の実現に向けて.....	6 1





# 第 I 章 計画の前提

## 1. 計画の背景と目的

野津田公園は、約 40ha の面積を有し、市内では唯一の陸上競技場がある最も大規模な総合公園である。

野津田公園は、1981 年に基本構想、1987 年に基本計画を策定し、「多くの市民が渴望している都市規模にふさわしい、スポーツ施設を中心とした総合公園とする」ことを方針として掲げて、段階的に整備を進め、順次開園してきた。

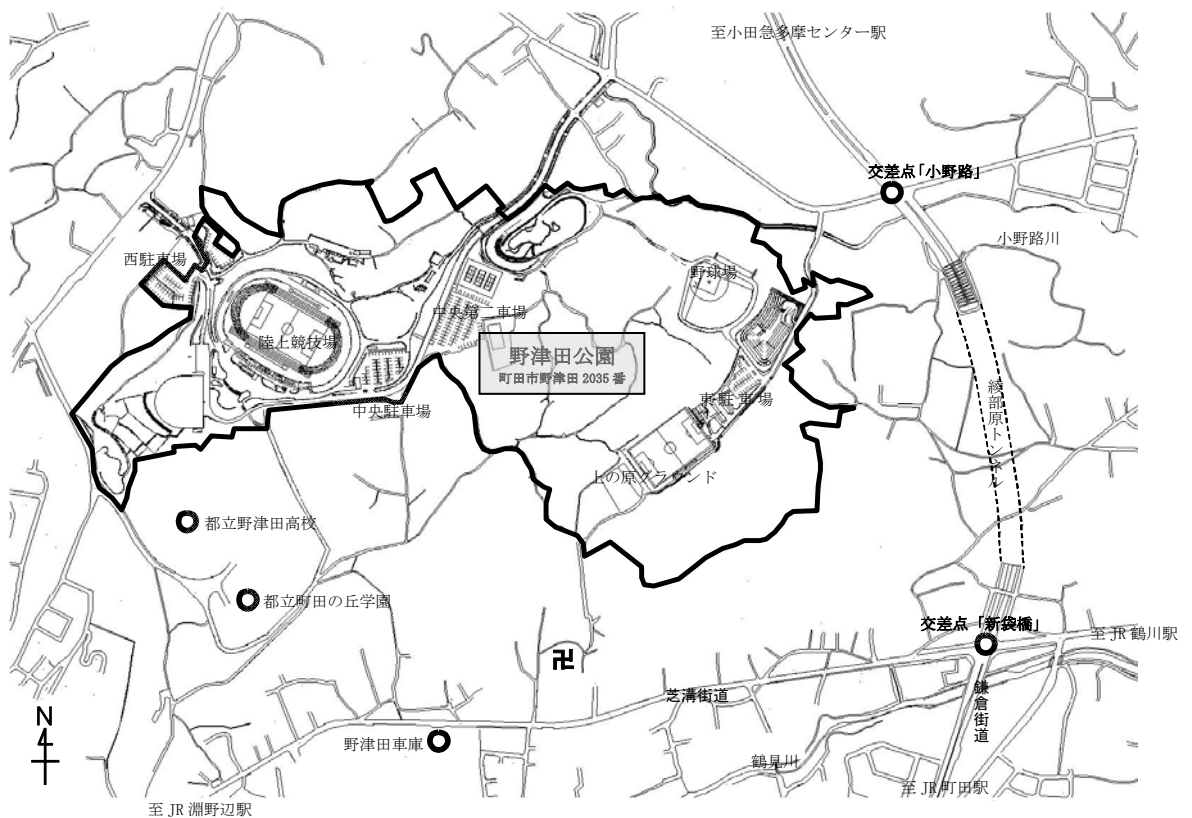
基本計画の策定から約 30 年が経過し、公園利用・活動の多様化、健康意識の高まりから、公園に対する需要や野津田公園を取り巻く環境が変化している。

「する」スポーツや「観る」スポーツをさらに充実させる等、多世代が魅力を感じる公園施設が求められている。

第二次野津田公園整備基本計画は、このような背景を踏まえ、野津田公園の将来を見据えたスポーツ施設を中心とした総合公園として、新たなニーズにも対応できる公園整備の方向性を明確にすることを目的として策定する。

計画の策定にあたっては、市民や有識者による計画懇談会を開催するとともに広く市民の意見・要望を伺い、その方向性、計画内容を検討したものである。

図 1-1. 野津田公園位置図



## 2. 野津田公園の概要

野津田公園は、市域北部の野津田町に位置し、豊かな自然と丘陵地の地勢が残る総合公園である。

公園内には第三種公認陸上競技場であり、町田ゼルビアのホームグラウンドとしても利用されている陸上競技場のほか、上の原グラウンドや野球場、テニスコートなどのスポーツ施設を整備してきた。

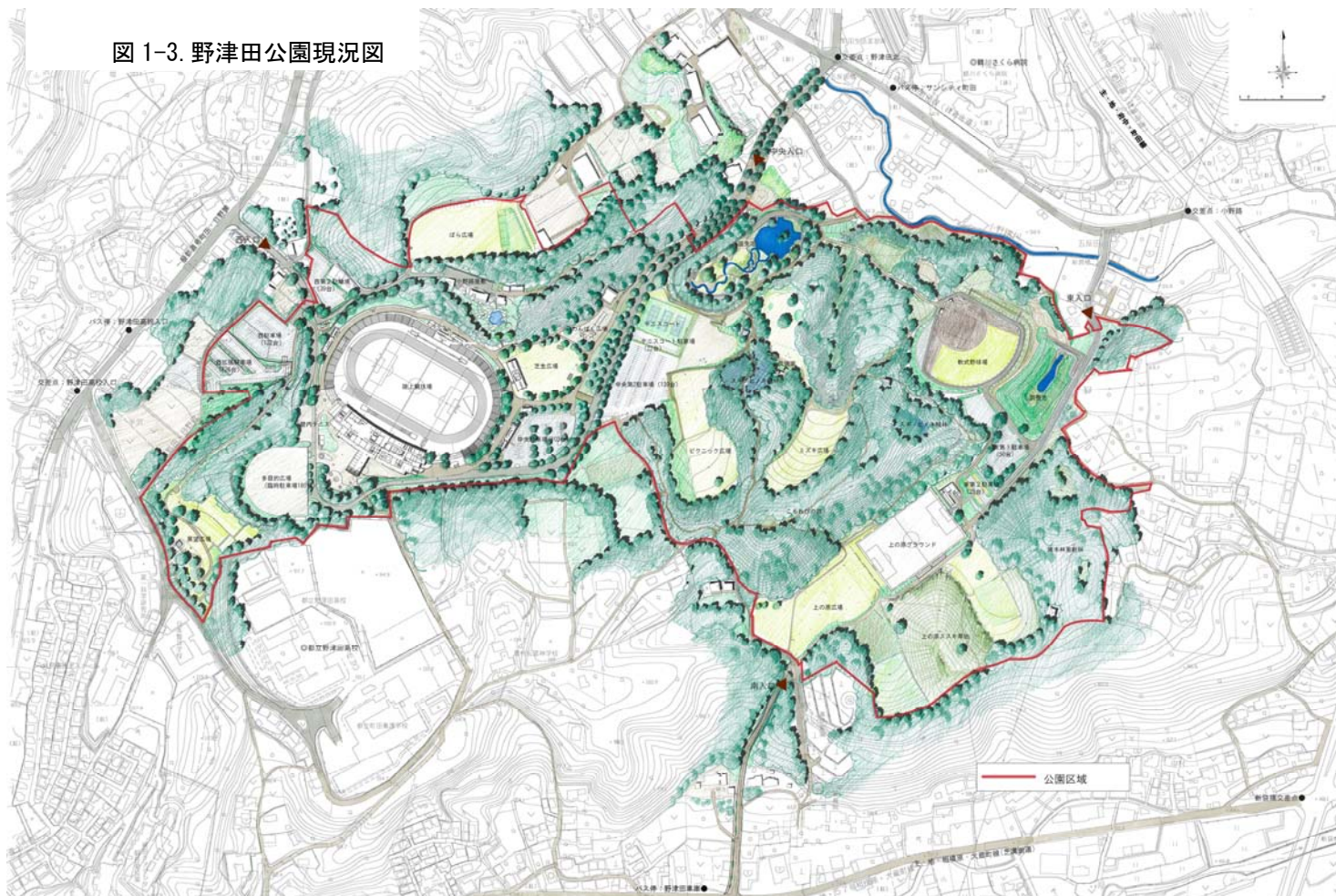
上記スポーツ施設のほかに、公園区域の大半が斜面緑地と谷戸の草地広場で構成され、自然散策などの利用も多い。

図 1-2. 野津田公園航空写真





図 1-3. 野津田公園現況図



規模	393,289.21 m <sup>2</sup>
種別	総合公園
住所	町田市野津田町 2035 番
開園年月日	1990 年 10 月 1 日
開園時間	午前 6 時～午後 8 時
主要施設	陸上競技場、テニスコート、上の原グラウンド、野津田球場、多目的広場、芝生広場、村野常右衛門生家、湿性植物園

### 3. 野津田公園整備計画の変遷

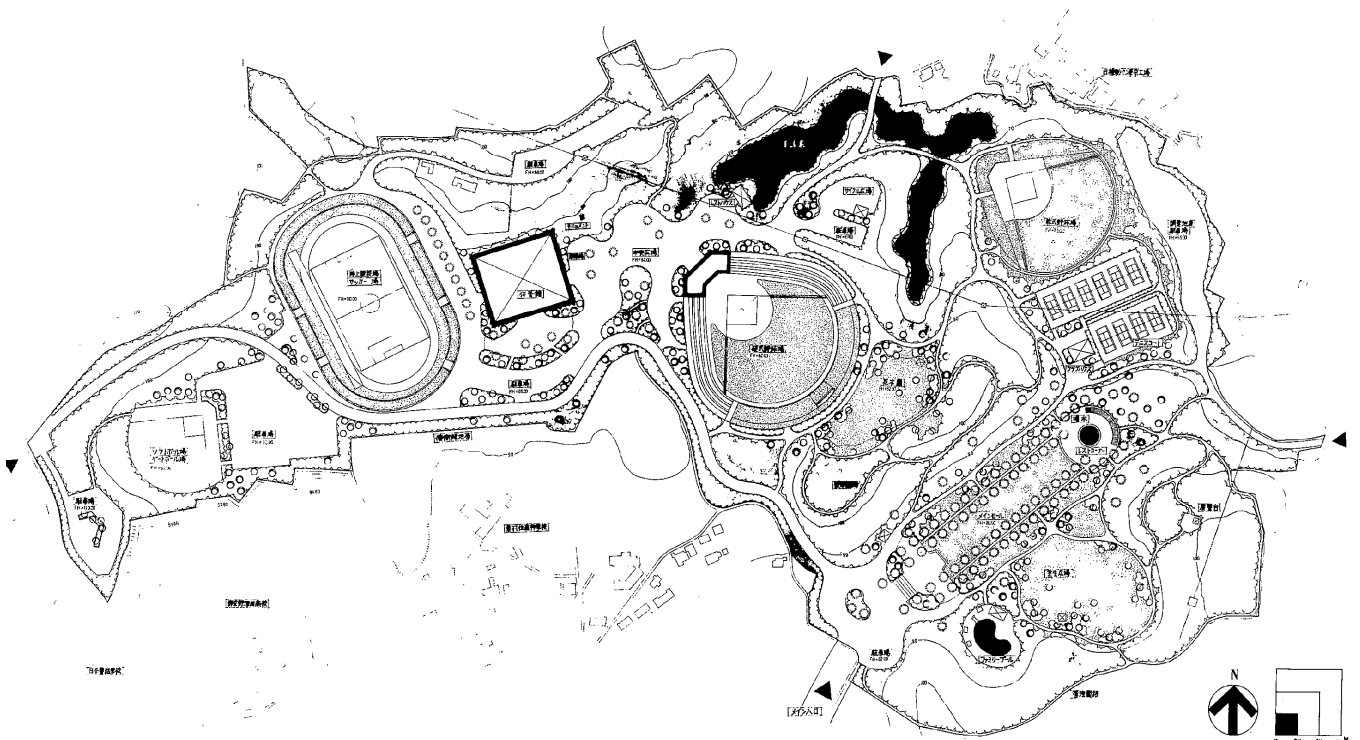
野津田公園は、1981年の基本構想、基本計画に基づく整備を行ってきた。以下に現在に至るまでの計画変遷をまとめる。

#### 1) 町田都市計画 野津田公園基本構想 (1981年12月)

野津田公園について、本格的な運動施設を備えた大規模な総合公園としての基本構想を町田市都市計画野津田公園建設審議会（以下「審議会」という。）に諮問し、審議会において豊かな緑と地形を最大限に生かし、30万人都市にふさわしい施設を備え、市民の誰もが身近にスポーツ・レクリエーションを楽しむことのできる総合公園を目標とした中間答申を受け、基本構想を策定した。

- 公認、公式の各種スポーツ大会ができる運動施設の整備
- 芝生広場や遊歩道、展望台などの「憩いの場」の整備

図 1-4. 野津田公園基本構想図

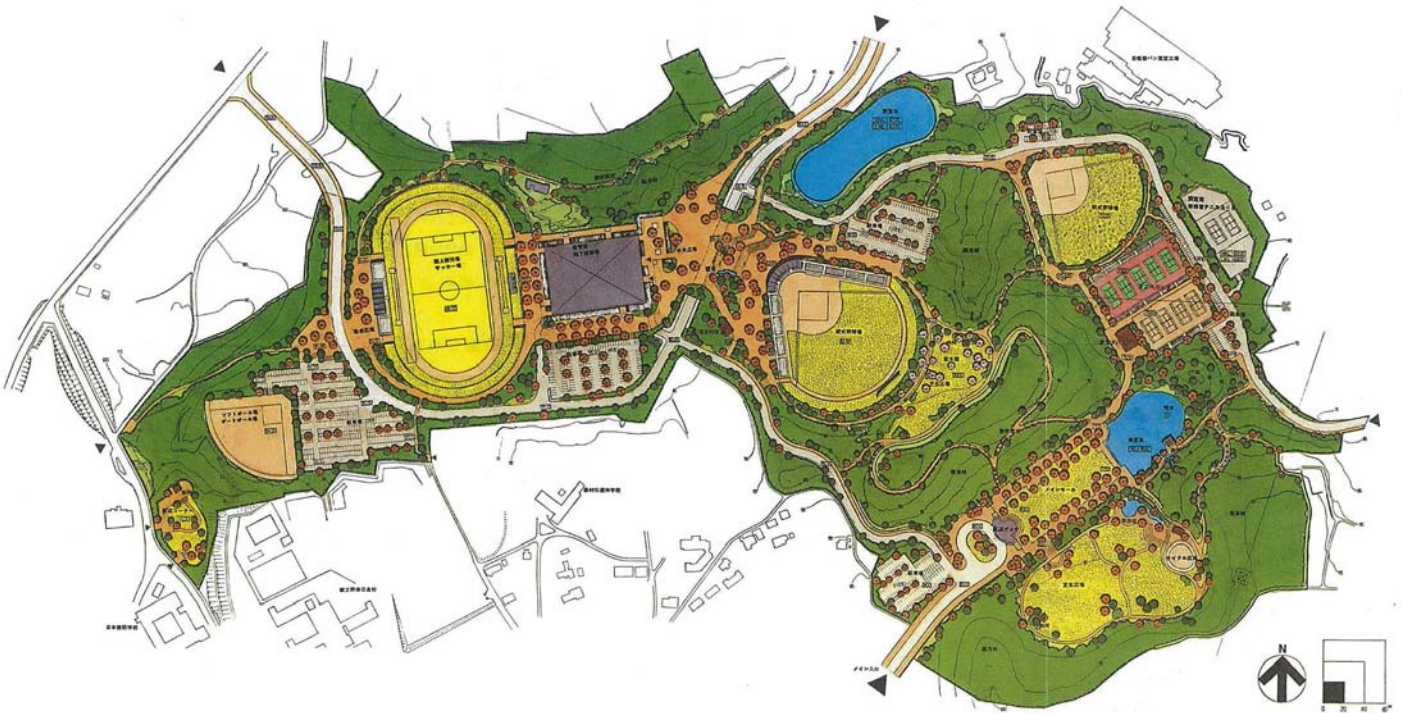


## 2) 町田都市計画 野津田公園基本計画 (1987年3月)

中間答申を受けて策定した「野津田公園基本構想」に基づき 1987年3月まで通算19回にわたる審議を重ねた結果、以下の二点を基本方針として審議会の最終答申を受け、基本計画を策定した。

- 多くの市民が渴望している都市規模にふさわしい、スポーツ施設を中心とした「総合公園」とする。
- 緑豊かな自然と調和した公園とする。

図 1-5. 野津田公園基本計画図





### 3) 町田都市計画 野津田公園基本計画（第2期整備計画）（1993年3月）

1987年3月に取りまとめた基本計画に基づいて整備を進め、1990年10月に第1期整備区域である西側の約16.4haを開園した。その後、野津田公園を取り巻く情勢の変化に伴い、基本計画の考え方を継承した上で第2期整備区域の計画を策定した。

- 総合体育館やテニスコート（成瀬地区）、野球場（鶴川地区）の新設などスポーツ施設整備充実に伴う導入施設の見直し
- 周辺の道路整備等による公園への進入路の見直し
- 公園内の自然や郷土の文化等を生かした公園の整備
- 雑木林の保全 など

図1-6. 野津田公園基本計画図（第2期整備計画）



#### 4) 導入施設の変遷

野津田公園における導入施設計画の変遷と現在の状況について下表に示す。

表 1-1. 野津田公園における導入施設計画の変遷と現在の状況

		野津田公園基本 構想 (1981. 12)	野津田公園基本計画 (1987. 3)		現在の施設整備 の現況
				第 2 期整備計画 (1993. 3)	
運動施設	硬式野球場	19,000 m <sup>2</sup> 両翼 92m センター120m ナイター照明	19,000 m <sup>2</sup> 両翼 92m センター120m ナイター照明	—	—
	軟式野球場	14,000 m <sup>2</sup> 両翼 86.9m センター105m	14,000 m <sup>2</sup> 両翼 86.9m センター105m	硬式野球場へ変更 19,000 m <sup>2</sup> 両翼 92m センター120m ナイター照明	8,500 m <sup>2</sup> 両翼 80m センター 90m 照明施設なし
	ボール ソフト	5,500 m <sup>2</sup> ゲートボールと兼用	5,500 m <sup>2</sup> ゲートボールと兼用	5,500 m <sup>2</sup> ゲートボールと兼用	—
	陸上競技場	23,000 m <sup>2</sup> サッカー場兼用	23,000 m <sup>2</sup> サッカー場兼用	23,000 m <sup>2</sup> サッカー場兼用	30,000 m <sup>2</sup> Jリーグ対応 1万人収容スタンド 第三種公認陸上競技場
	テニ ス場	10,000 m <sup>2</sup> 10面 一部ナイター照明 クラブハウス	10,000 m <sup>2</sup> 11面 一部ナイター照明 クラブハウス	—	3面 砂入り人工芝
	体育館	5,600 m <sup>2</sup> 武道も併用できるよ う計画する 管理事務所を含む	5,600 m <sup>2</sup> 武道も併用できるよ う計画する 管理事務所を含む	5,600 m <sup>2</sup> 武道も併用できるよ う計画する 管理事務所を含む	—
	サイク ル広場	自転車練習コーナー としての利用	自転車練習コーナー としての利用	—	—
	プ ァ ミ リ ー	2,500 m <sup>2</sup>	—	—	—
修景施設	モ イ ン	長さ 220m、幅 70m	長さ 220m、幅 70m	メインモールから上 の原広場へ変更	メインモールから上 の原広場へ変更
	調 整 池	一部は修景地 1,000t/ha 軟式野球場、駐車場 兼用	一部は修景地 1,000t/ha 軟式野球場、駐車場 兼用	一部は修景地 1,000t/ha 軟式野球場、駐車場 兼用	一部は修景地、園地 1,000t/ha
便 益 施 設	駐 車 場	約 1,000 台を目標と し、障がい者専用 10 台とする	約 1,000 台を目標と し、障がい者専用 10 台とする	約 1,000 台を目標と し、障がい者専用 10 台とする	626 台

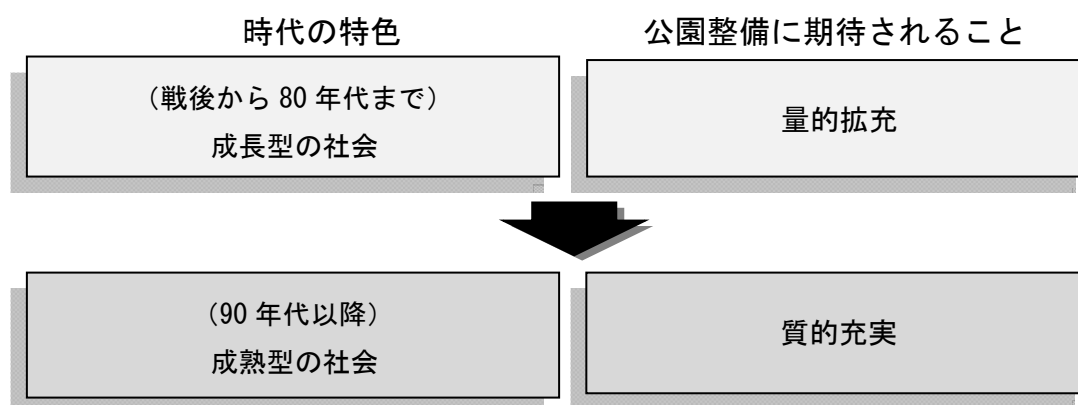
#### 4. 公園をとりまく社会状況の変化

基本計画策定のための検討を行うにあたり、公園をとりまく社会状況の変化を把握し、今後の公園のあるべき姿を想定する。

近年、少子・高齢化、人々の健康志向、国際化など我々をとりまく社会状況は大きく変わってきている。こうした中で、公園に対する市民の期待や公園の持つ意義、地域にもたらす役割等も時代と共に変化してきている。

##### 1) 公園整備に期待されることの変化

戦後の高度経済成長期からいわゆる「バブル経済が破綻」した1990年代初頭までの間において、都市公園整備は国民一人当たりの公園面積を増やすといった「量的な拡充」を中心に進められてきた。その後、社会が成長型から成熟型へ方向が転換し、都市公園整備はその「質的な充実」が求められるようになった。



##### 2) 子どもの運動能力や体力に関わる状況の変化

親の世代(1981年)と今の子ども達(2011年)の身長及び基礎的運動能力の比較について、身長は今の子ども達が親の世代を上回っている一方で、50m走及びソフトボール投げでは、今の子ども達が親の世代の記録を下回っている。

このように、子どもの運動能力や体力が低下傾向にあり、子どもの体力向上につながるような自然遊びの空間やスポーツ施設が求められている。

表 1-2. 身長・基礎的運動能力の比較

(出典 公益財団法人日本レクリエーション協会ホームページ)

	男 子		女 子	
	親の世代	今の子ども達	親の世代	今の子ども達
身長 (cm)	142.8	145.0(↑2.2)	145.0	146.7(↑1.7)
50m 走 (秒)	8.8	8.9(↓0.1)	9.0	9.2(↓0.2)
ソフトボール 投げ (m)	34.8	29.7(↓4.1)	20.8	17.5(↓3.3)

※親の世代は1981年度、今の子どもは2011年度時点での11歳



### 3) 高齢者・障がい者に関わる状況の変化

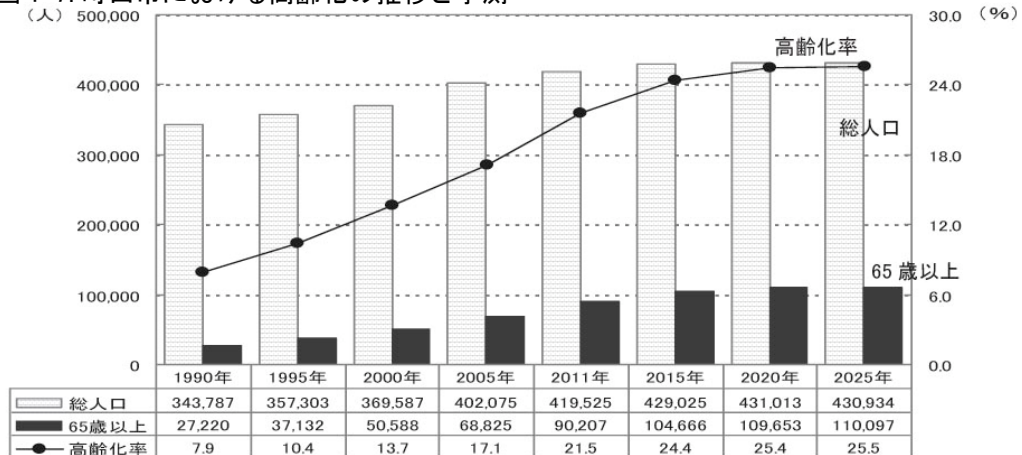
町田市の高齢化率は、2008年には20%を超え、市内総人口の5人に1人が高齢者となり、さらに2015年には下図のように24.4%になることが予測される。

「町田市高齢者福祉計画（2012年度～2021年度）」では、計画目標のひとつに「地域参加と生きがいつくりの推進」をあげ、「高齢者の生きがい・集う場づくり」「健康づくり・介護予防の推進」等の基本重点施策を挙げている。

障がい者についても、「町田市障がい者総合計画」の中で、福祉のまちづくりを推進し、「バリアフリーのまちづくり」「余暇活動の充実」など本公園等の野外空間に関わる課題や方向性を挙げている。

また、野津田公園では、パラリンピック出場選手の練習場として活用していることや2013年度に実施した「障がい者のための陸上競技教室」（全11回）において小学生から40代まで幅広い世代の参加があった。

図 1-7. 町田市における高齢化の推移と予測



資料:1990～2011年は、各年1月1日(住民基本台帳)

2015年以降は「町田市将来人口推計」(2010年10月1日の住民基本台帳を基準値とした推計)

### 4) スポーツ施設の状況の変化

市内には現在、陸上競技場・体育館・野球場・運動広場・テニスコート・屋内プール・グラウンドの26施設が整備されている。

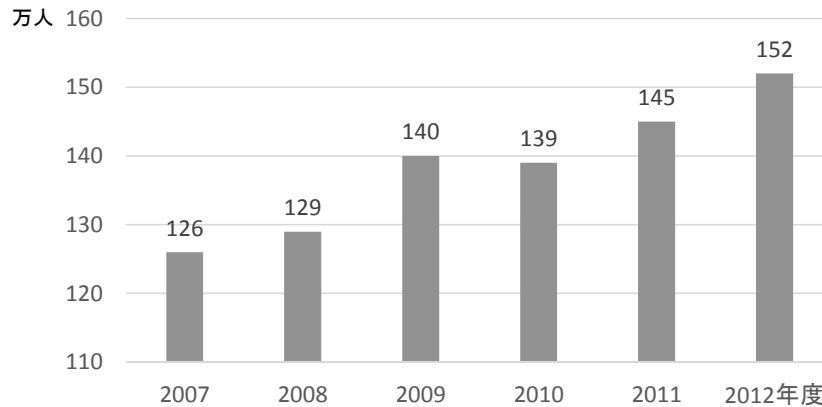
2012年度には年間延べ150万人以上の方に利用されており、利用率も平日を含めて体育館では9割以上、テニスコートでは8割程度、平日利用の少ない野球場やグラウンドでも5割程度と高い水準で推移している。

体育館では利用抽選申し込みの倍率が3倍を超えるなど、利用者のニーズは高く、さらなるスポーツ施設の充実が求められている。また、近隣の自治体と比較しても、スポーツ施設が充実しているとはいえない状況である。

表 1-3. スポーツ施設数等の順位（多摩 26 市中、市民一人当たり）

多目的グラウンド（面数）	15位
テニスコート（面数）	19位
体育館（面積）	24位

図 1-8. スポーツ施設の年間利用者数の推移



### 5) 国際的スポーツイベントの開催

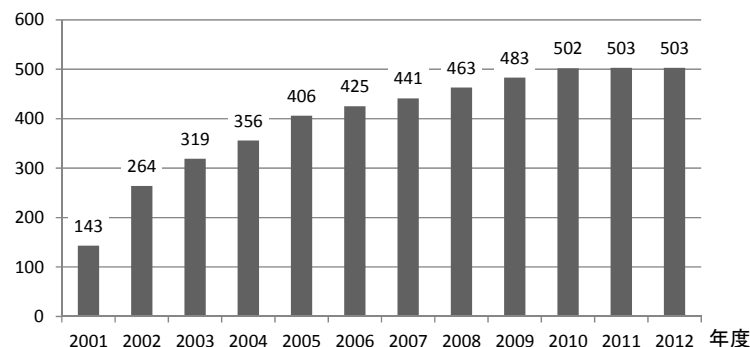
2020年のオリンピック・パラリンピックの開催都市に東京が決定したことから、今後参加国は練習施設・滞在施設を有する地域をキャンプ地として選定することになる。

Jリーグ対応の第三種公認競技場である都内有数の陸上競技場を有する野津田公園は、東京都内において重要なオリンピックの拠点として、キャンプ地の招致を目指している。一方、野津田公園は、歴史的資産や田園風景など豊かな自然環境が保全されてきた北部丘陵エリアに位置し地域の里山の文化を伝える拠点となっている。

### 6) 自然や緑とのふれあいに対するニーズの変化

東京都の「緑のボランティア活動登録制度」におけるボランティア活動希望者の登録数をみると、市民ボランティアによる樹林地の手入れや公園の清掃等、様々な緑の保全・創出に向けた活動に主体的に参加する市民が増加するなど、自然や緑とのふれあいに対するニーズが増えていると言える。

図 1-9. 緑のボランティア活動希望者の登録数



※東京都緑のボランティア（活動希望者）登録一覧より作成

## 5. 上位関連計画

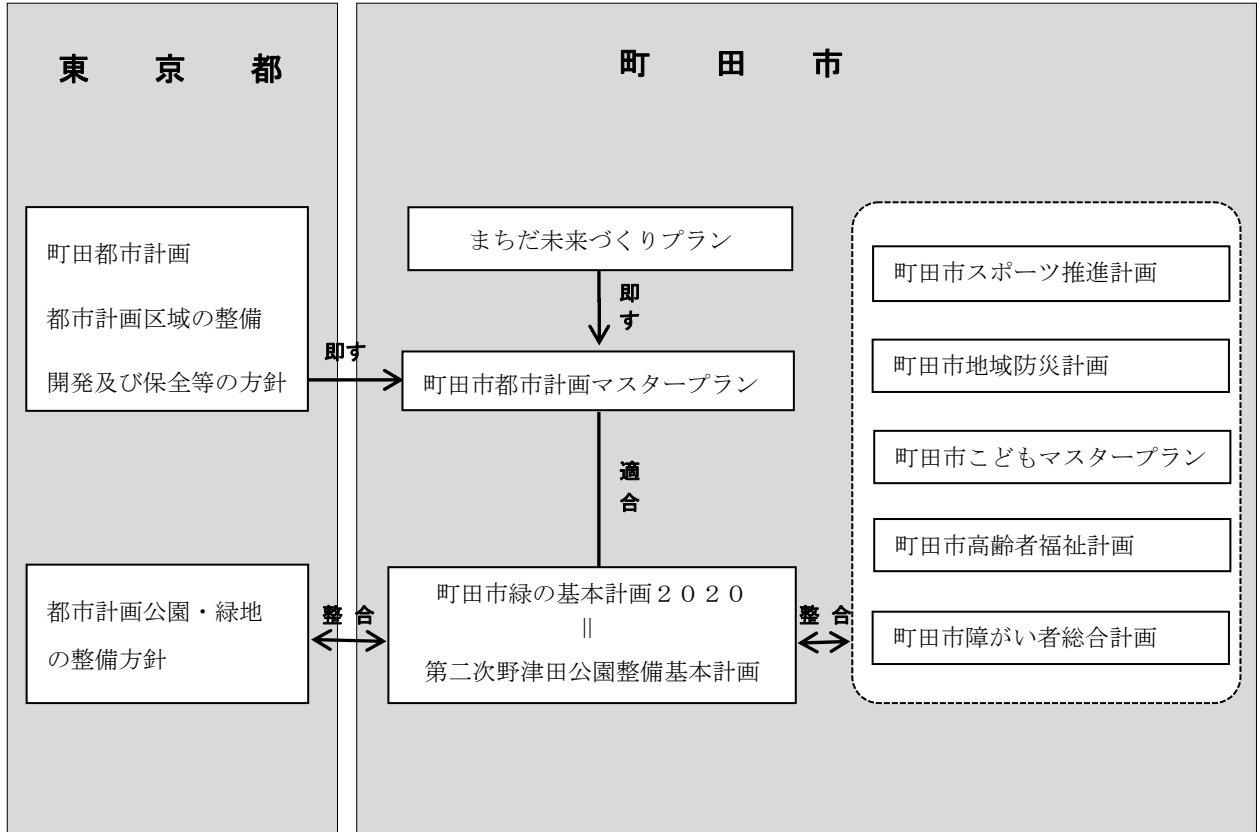
本計画の上位計画及び関連計画を市の総合計画やスポーツ推進計画などから公園整備の前提となる計画を以下にまとめる。

表 1-4. 野津田公園に關係する上位関連計画の内容

計 画 名	上位関連計画と整合する必要がある内容
<p>まちだ未来づくり プラン (2011年12月)</p>	<p>「基本政策2 文化芸術活動やスポーツが盛んなまちをつくる」について、野津田公園に關係する内容として以下の施策及び現況と課題があげられている。</p> <p>政策2 誰もがスポーツに親しめる環境をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 施策1 スポーツ活動の振興</li> <li>● 施策2 トップレベルのスポーツを楽しめる環境づくりの推進</li> <li>● 施策3 アスリートやスポーツチームの支援</li> </ul> <p>現況と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民意識調査によると、スポーツ活動を行う機会を持つことができた市民の割合は15%程度となっており、特に、働き盛りの世代の市民が、なかなかスポーツ活動を行う時間や機会を確保できていない状況にあります。</li> <li>● スポーツに親しむ場として、公立小・中学校の校庭や体育館の開放、スポーツ広場の提供などを行っていますが、施設の拡充や利用時間の延長などの要望も多く、市内のスポーツ環境は必ずしも充実しているとはいえません。</li> <li>● 地域スポーツクラブは、スポーツを通じた地域交流や世代間交流の場となるため、今後さらなる普及が期待されます。</li> <li>● 市内のスポーツ施設・競技場は、プロスポーツなどの大規模な大会やイベントの興行に有効に活用されておらず、市内でトップレベルのスポーツを観て楽しめる機会や場が十分ではありません。</li> <li>● 市内には実力あるアスリートやホームタウンチーム、スポーツの強豪校が数多く存在しており、これらのスポーツ資源を、まちの魅力の向上や人々の交流機会の創出、次世代の人材育成などに活かすことが期待されます。</li> </ul>
<p>町田市都市計画 マスタープラン (2013年6月)</p>	<p>北部の丘陵地域のまちづくりの構想のうち、野津田公園では以下の方針が示されている。</p> <p>方針① にぎわいと交流を創出するまちづくり（拠点活性化）</p> <p>ア) スポーツなどを通じた交流の場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野津田公園の陸上競技場、小野路公園の野球場など既存のスポーツ施設を活かし、人々がスポーツを楽しみながら交流を図れる場づくりを進めていきます。</li> <li>・ 野津田公園では、魅力ある公園づくりに向けた基本計画「第二次野津田公園整備基本計画」を策定し、整備を進めていきます。</li> </ul>
<p>町田市緑の基本計画 2020 (2011年6月)</p>	<p>野津田公園は、都市基幹公園の総合公園に位置づけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合公園・・・都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積10～50haを標準として配置する。</li> </ul>

計 画 名	上位計画と整合する必要がある内容
<p>町田市スポーツ 推進計画 (2014年3月)</p>	<p>野津田公園に関係する内容は以下のとおりである。</p> <p>戦略2 トップスポーツ支援 (施策4)「トップスポーツ」の環境づくり (1) 競技スポーツの場の整備 ・【重点施策】オリンピックキャンプ地招致 ・スポーツ施設の有効活用策の検討</p> <p>戦略3 スポーツ環境の整備 (施策5) スポーツのまちづくり (2) 公園等におけるスポーツ施設の整備 ・【重点施策】野津田公園におけるスポーツ施設整備</p>
<p>町田市地域防災計画 (2012年12月)</p>	<p>第2章 災害予防計画の「第4 オープンスペースの確保」において、野津田公園に関する計画の内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存都市計画決定公園の見直し、大規模公園、住区基幹公園の整備促進</li> <li>・未利用地の有効活用</li> <li>・既存公園の避難広場（避難場所）として、安全性向上のための整備の実施</li> </ul>
<p>町田市子ども マスタープラン (2004年12月)</p>	<p>野津田公園に関係する内容は以下のとおりである。</p> <p>基本目標 III 子どもが地域の中で大切にされている 重点目標 1 人と人が関わりつなげる場をつくる（家庭・施設・学校・地域・行政の協働） 個別目標（3）体験できる場（多様な体験ができる機会を増やす） 個別目標（4）交流できる場（子どもや子育てしている人がふれあい、情報交換できる場を増やす）</p>
<p>町田市高齢者 福祉計画 (2012年3月)</p>	<p>野津田公園に関係する内容は以下のとおりである。</p> <p>基本目標 1 「地域参加と生きがいづくりの推進」における野津田公園に関する施策。 基本施策（1）高齢者の生きがい・集う場づくり （2）健康づくり・介護予防の推進</p>
<p>町田市障がい者 総合計画 (2007年3月)</p>	<p>基本方針「福祉のまちづくりの推進」において、野津田公園に関する内容は以下のとおりである。</p> <p>(1) バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくり ①バリアフリーのまちづくり</p> <p>(4) 余暇活動の充実 ① 障がい者スポーツ大会のあり方を検討 ② 障がい児スポーツ教室の開催</p>

図 1-10. 上位関連計画との関係



## 6. 野津田公園の現況

### 1) 公園利用状況

#### (1) 利用者数

##### ①運動施設

野津田公園の運動施設利用者数は、下表の「2012 年度運動施設利用者数」からおおむね以下のようにまとめられる。

Jリーグの公式戦が実施されている11月までの運動施設の利用者数は1万人を上回り、特に4月、5月と7月は2万人に近い利用者数を示す。反面、公式戦が実施されていない12月、1月の運動施設の利用者数数は5000人以下となり、その差は明確である。

図 1-11. 運動施設の利用者数 (2012 年度)



※「野津田公園指定管理業務 2012 年度資料及びゼルビアホームページ」より作成

##### ②園地施設

下表に 2012 年度の野津田公園における園地施設利用者数を示す。園地施設に関しては、遊具広場や芝生広場の利用者数が多く、一年の中でも4月～6月、10月に利用が多くみられる。また、5月にはばら園が見頃を迎え利用者数が増加する。

表 1-5. 園地施設の利用者数 (2012 年度)

※網掛け部分は利用者が高いことを示す

施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
多目的広場	120	138	162	99	53	46	126	54	46	47	6	195	1092
ばら園	88	1,147	761	101	52	60	260	176	45	55	36	40	2821
壁打ちテニス	422	427	393	361	434	333	419	344	269	381	336	357	4476
展望広場	118	120	92	95	103	122	265	69	72	63	74	115	1308
遊具広場	1,514	1,366	1,092	453	544	909	1,199	980	518	716	114	330	9735
芝生広場	1,985	1,685	1,293	446	448	869	1,233	710	393	437	417	1032	10948
ピクニック広場	165	154	400	4	13	45	509	859	43	17	125	219	2553
上の原広場	98	75	53	71	3	4	111	85	0	38	22	29	589
ススキ草地	170	51	229	68	17	28	336	126	27	50	51	67	1220
計(人)	4,680	5,163	4,475	1,698	1,667	2,416	4,458	3,403	1,413	1,804	1,181	2,384	34,742

※「公園管理者の巡回時における集計」より作成

## (2) 利用者層

運動施設・園地施設に対する利用者層について以下に示す。

### ① 運動施設

陸上競技場ではJリーグ公式戦が開催されており、その他の運動施設では市民大会等が開催されている。

#### 運動施設の主な利用

- 陸上競技場：Jリーグ公式戦
- 上の原グラウンド：町田サッカー協会
- 野津田球場：町田市少年野球連盟
- 野津田公園テニスコート：町田市ソフトテニス連盟

### ② 園地施設

下表に園地施設における団体利用状況について示す。幼稚園や小学校による遠足、園外保育といった利用が多い。

表 1-6. 園地施設の団体利用状況 (2012 年度 4 月～1 月)

活動団体	件数	主な活動内容
幼稚園・保育園	61	遠足、園外保育、オリエンテーション、写生会、スタンプラリー等
小学校	22	遠足、生活科見学、社会科見学、昆虫採集
里山活動団体	17	里山ワークショップ、環境学習イベント、更新実験林手入れ等
市事業	2	講座、市民大学、安全講習会等
地域事業	12	消防訓練、地区交流会等
その他	5	オリエンテーション、花見、映画・ドラマ撮影等
計	119	

※「野津田公園指定管理業務 2012 年度資料」より作成

### (3) 公園内駐車場の現状

野津田公園の駐車場は、区域の中央、東側、西側それぞれに2箇所ずつ、計7箇所、626台分が整備されている。

表 1-7. 公園内駐車可能台数

名称	駐車可能台数
①中央第一駐車場	103台
②中央第二駐車場	139台
③西口第一駐車場(拡張部共)	248台
④西口第二駐車場	39台
⑤東第一駐車場	50台
⑥東第二駐車場	25台
⑦テニスコート駐車場	22台
合計	626台

図 1-12. 駐車場の位置







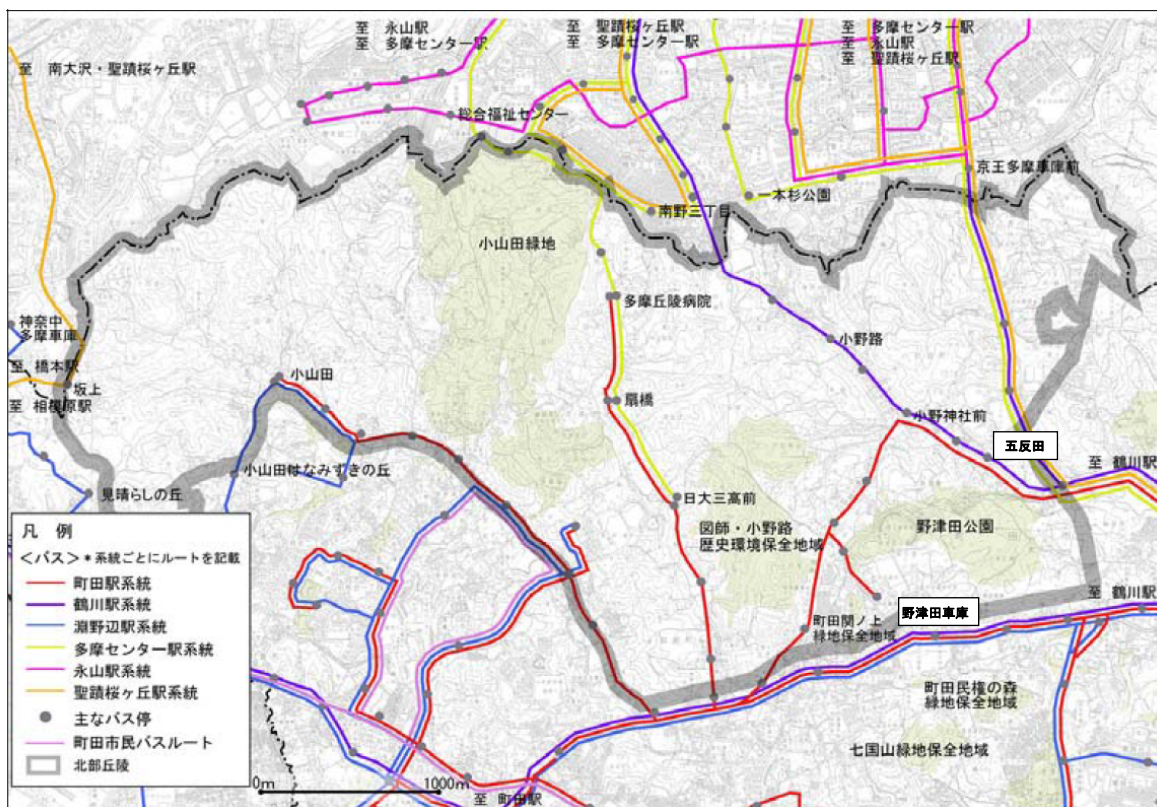
## ②路線バス

町田駅や鶴川駅のほか、隣接市にある橋本駅、淵野辺駅、多摩センター駅からバス路線があるが、全体的に野津田公園へのバスルートは少ない。

野津田公園内には、イベント時のみのバス停しか存在しないため、交通の利便性が低いといった状況である。また、各鉄道駅より野津田公園への路線バスの経路は以下の通りである。

- ・町田駅、町田バスセンター～野津田車庫（所要時間 25 分～30 分）
- ・鶴川駅～野津田車庫（所要時間 10～15 分）
- ・多摩センター駅～五反田（所要時間 25 分～30 分）

図 1-14. 野津田公園周辺のバス路線（出典 町田市北部丘陵活性化計画）



## (2) 周辺のレクリエーション分布からみた野津田公園の役割

市内には、陸上競技場・体育館・野球場・運動広場・テニスコート・屋内プール・グラウンド等の26施設が整備されている。このうち、野津田公園には陸上競技場・野球場・テニスコート・グラウンドが存在するが、現状では競技型スポーツ施設が主体となっており、健康スポーツ活動に対応する施設は十分に整っていない。

また、野津田公園はJリーグ所属チームの活動拠点として都市型観光の拠点となりつつあることに加え、野津田公園の位置する一帯は、レクリエーション資源・施設が多く分布していることから、これらの資源を結びつける重要な役割を持つことも期待される。

図 1-15. 市内のスポーツ施設整備状況

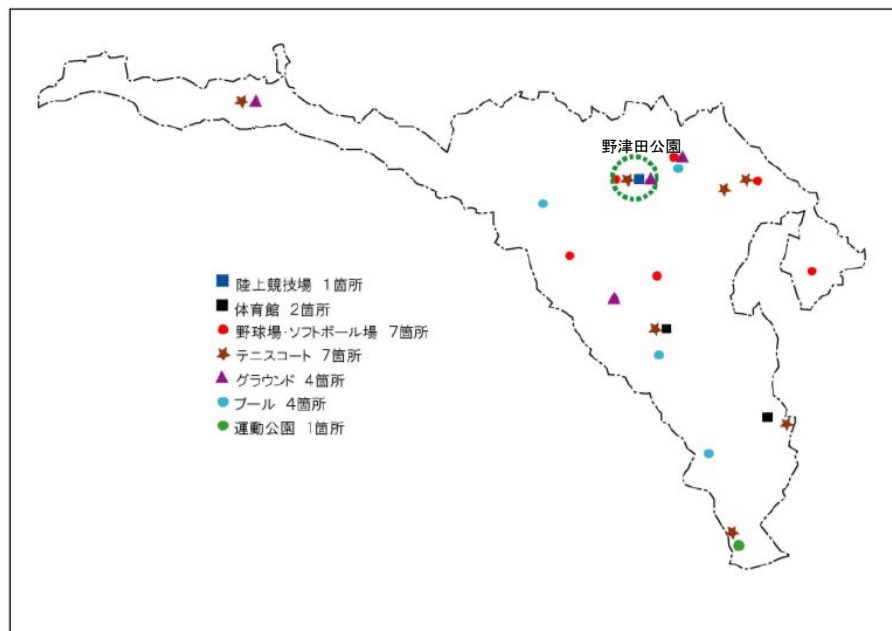


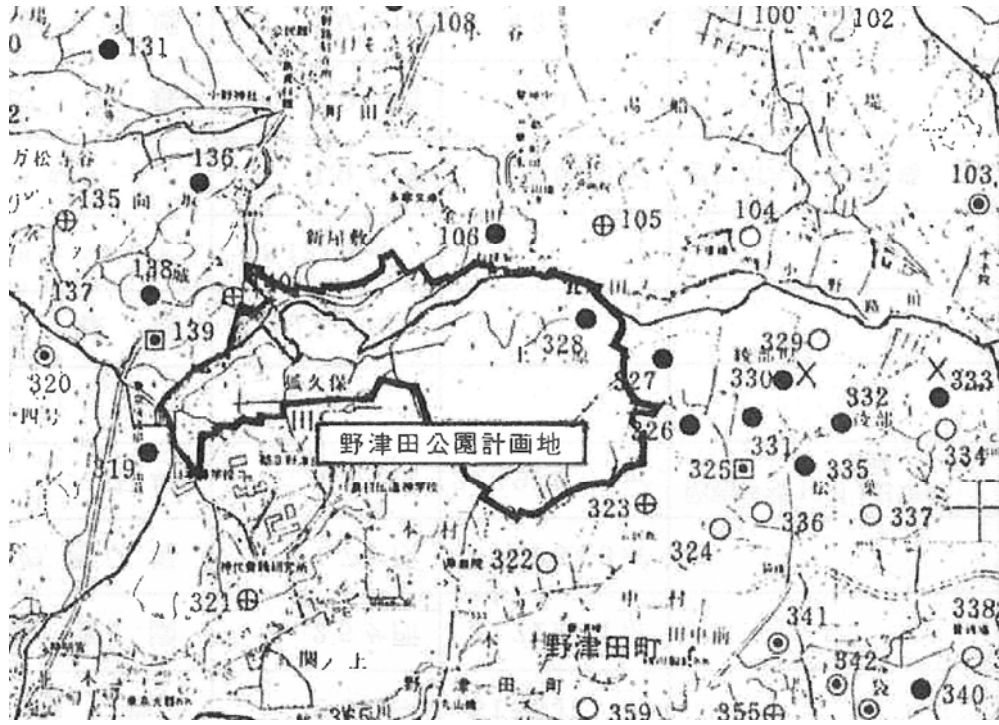
図 1-16. 野津田公園周辺一帯の観光・レクリエーション資源の分布



(3) 歴史的資源

多摩丘陵地帯には遺跡が多く存在し、町田市内においても 500 以上の遺跡地点が現存している。これら遺跡地点の過半数である 300 箇所以上は、縄文時代の遺跡であり、本計画地内においても「野津田上の原遺跡」が存在している。

図 1-17. 野津田公園周辺の遺跡分布 (出典 野津田公園基本計画)



凡例	×	先縄文時代遺跡・資料発見地点	◎	縄文時代と歴史時代の遺物が複合する遺跡
	●	縄文時代遺跡、または縄文時代遺物を主とする遺跡	○	古墳時代以降の土師・須恵式期の遺跡
	□	弥生時代遺跡	⊕	散布土器片によって時代区分しがたい遺跡
	◻	弥生時代遺跡と縄文時代遺跡とが複合する遺跡	—	町界線(昭和48年11月30日以前のもの)
	●	古墳・横穴、または塚を形成するもの		

昭和 47 年 12 月 調 町田市遺跡分布図より



### 3) 自然環境

#### (1) 地形・水系

町田市の地形は、西側の関東山地から丘陵地、台地、低地へと段階的に変化している。市域のほぼ全域が八王子市から連なり、三浦半島へと続く多摩丘陵に属している。丘陵地では、鶴見川、恩田川、真光寺川が流れ、これら河川の支流が多くの谷戸環境を形成している。

地質的な条件については、多摩丘陵の地層を構成している砂泥互層が、町田市域の最も広い面積を占める。これは、鶴川互層と呼ばれ、黄色浮石層の細砂と凝灰質の粘土岩の互層であり、貝化石の出土も多いとされる。

水系については、本計画地は鶴見川流域に属し、計画地北東側の小野路川を經由し大蔵町で鶴見川に流下している。

野津田公園においては、多摩丘陵の中央部にあたり、一部山林に食い込んだ谷もあり、複雑な谷戸地形が形成されている。そのため、公園内の標高差が約60mもある起伏に富んだ地形となっており、特に公園北東側は地形が入り組んで、その起伏が激しい。

図 1-18. 地形区分図 (出典 町田市緑の基本計画 2020)

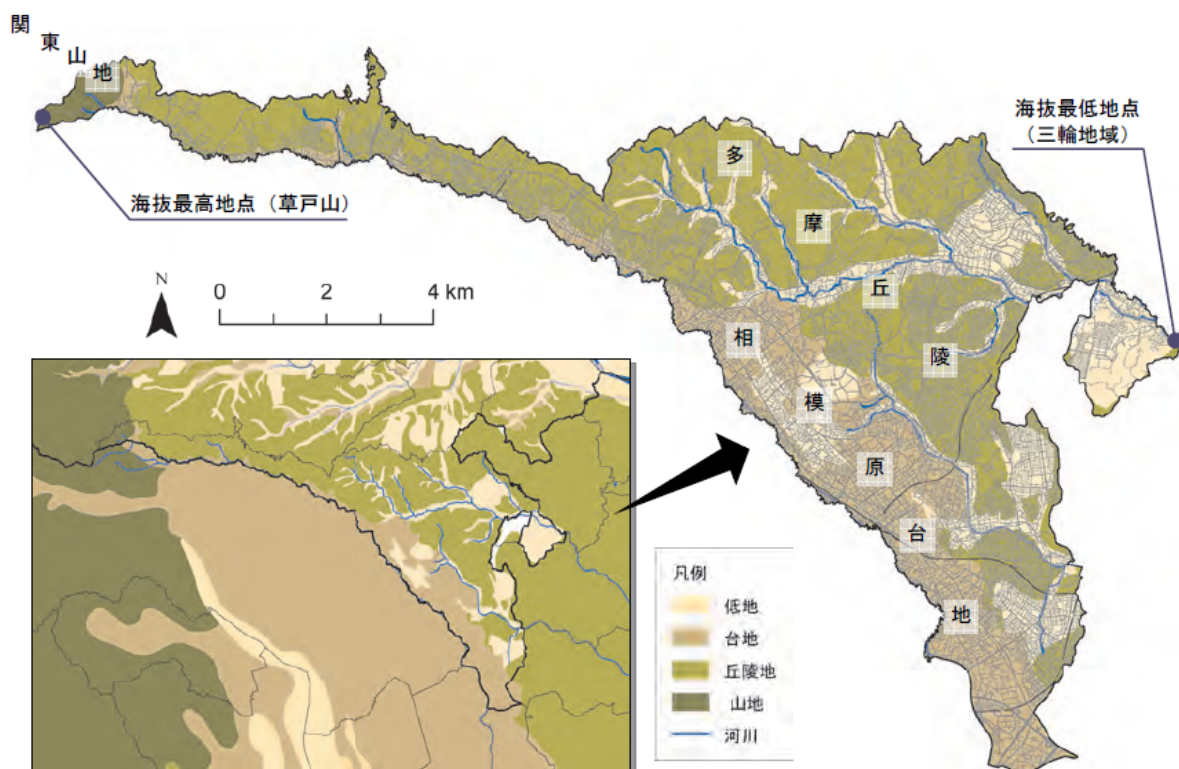
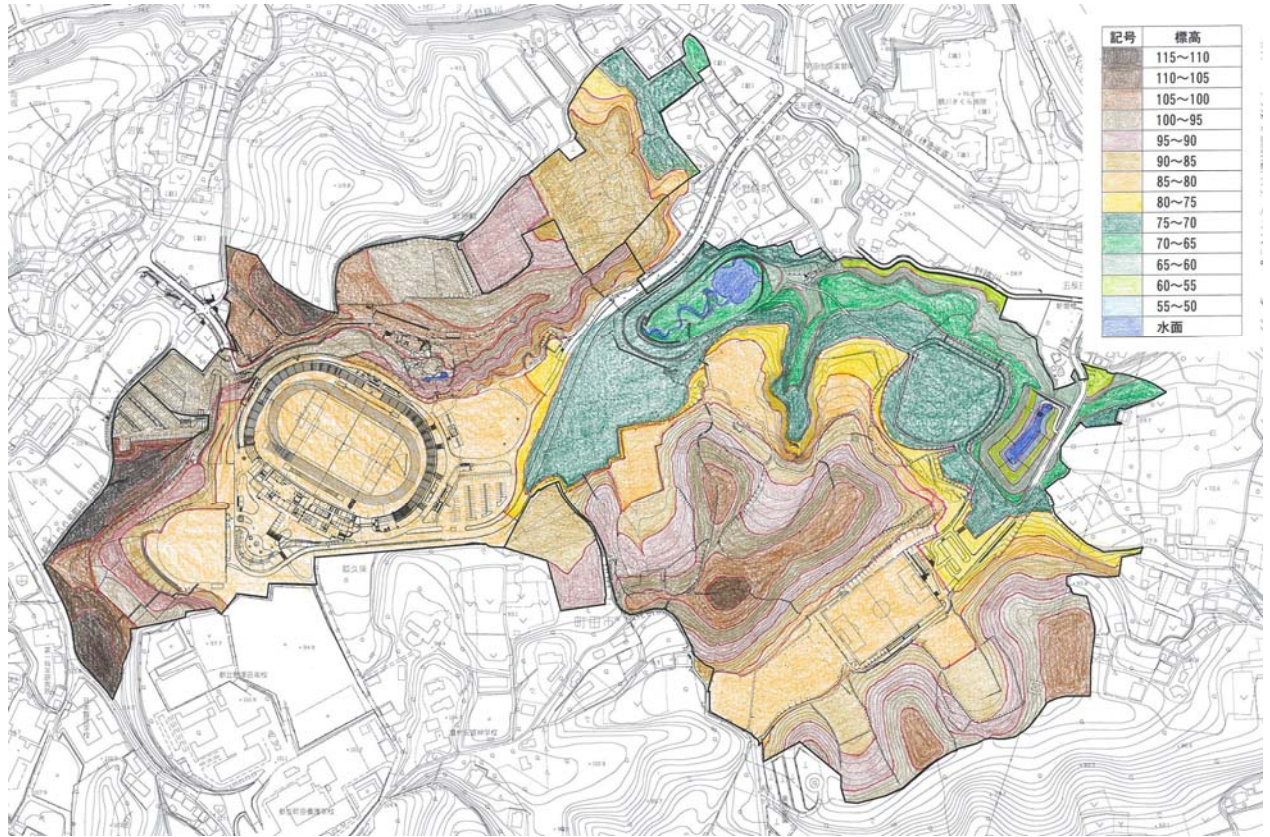


图 1-19. 野津田公園標高区分図



## (2) 敷地分析

野津田公園は、ゆるい斜面と山林や、山林にくい込んだ谷地形の一部にシラカシ等の自然林があるが、山林のほとんどがクヌギ、コナラの二次林で構成されている。


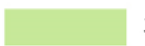










公園の東側は、本公園の特徴である大きな2つの谷地形を有している。特に東側の谷戸部は、その平坦な地形を活用したサッカーコートや野球場、ススキ草地や雑木林更新林といった、緑豊かな環境のもとでスポーツが楽しめるエリアとなっている。

公園の西側は、陸上競技場を中心に、テニスコート、遊具施設、芝生広場等の施設が主体となり、植生は施設空間周辺の斜面緑地に帯状に残存する。

図 1-20. 敷地分析図



凡例

	入口		平坦な地形。		既存スポーツ施設
	車両動線		緩やかな斜面地。		道路・駐車場等
	歩行者動線		斜面地		調整池
	公園敷地境界		急な斜面地		谷地形

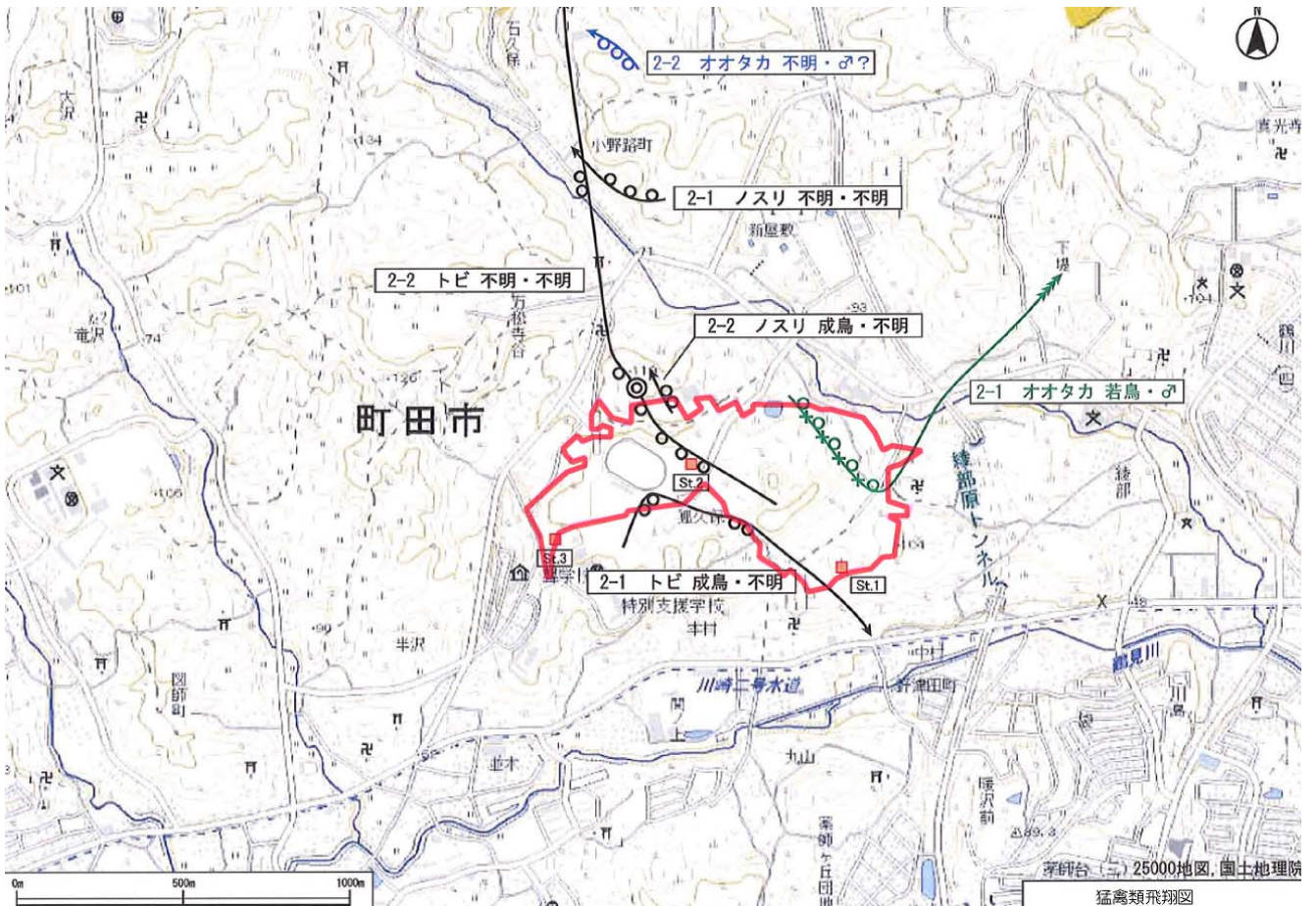


### (3) 動物・希少動物

計画地区一帯は、都市近郊にありながらオオタカ、キツネ、ムササビの存在も確認されており、北部丘陵と連携する自然環境にある。

野津田公園自然環境調査（秋季）業務委託（2013年1月）調査結果によると、猛禽類では環境の指標とされるオオタカをはじめ、ノスリ、ハイタカ、トビの飛翔が目撃され、トビについては探餌飛翔も確認されている。

図 1-21. 猛禽類飛翔確認位置図



出典：自然環境調査



#### 4) 景観

野津田公園一帯は、起伏に富んだ地形を有しており、変化に富んだ多様な地形景観に恵まれている。この中で、周囲の景観を生かした整備を行っており、眺望や水辺の景観要素など、多様で良好な景観を保っている。



丘陵地の景観 (ばら園)



水辺の景観 (湿性植物園)



眺望の景観 (上の原グラウンド)



維持管理された景観 (園路)



進入路の沿道景観 (臨時駐車場より陸上競技場側)



歴史的景観要素 (村野常右衛門生家)

## 7. 懇談会等による検討

本計画では、多様な市民・専門家等からの意見を踏まえ、ニーズを的確に捉えた計画立案のため、町田市第二次野津田公園整備基本計画懇談会による検討を行うとともに市民意見の募集を行った。

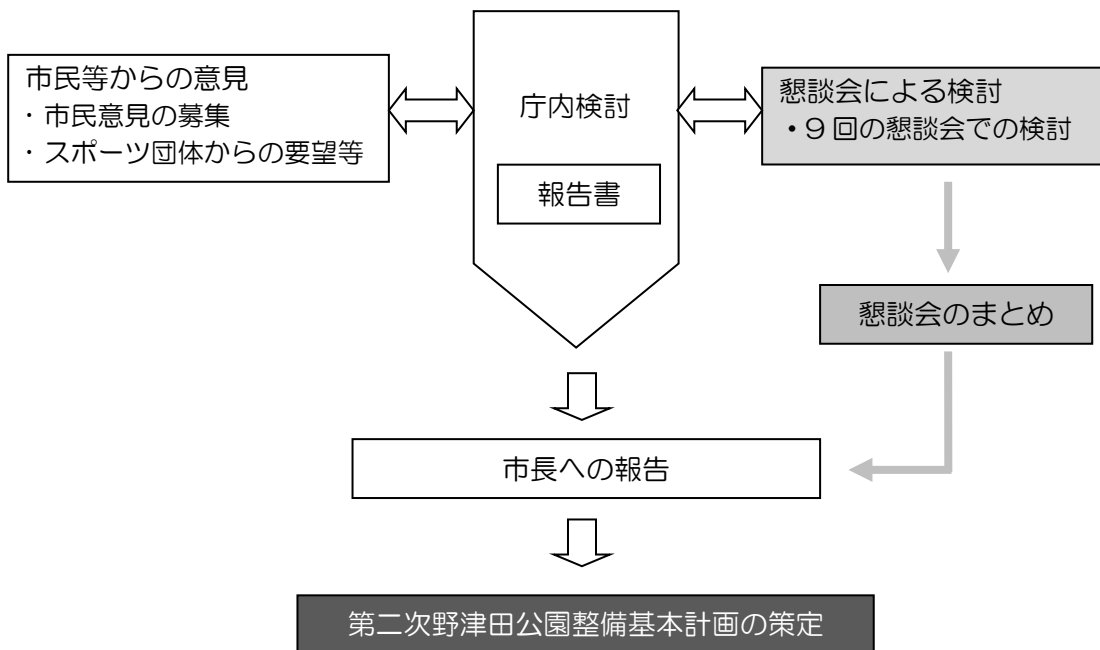
### 1) 町田市第二次野津田公園整備基本計画懇談会

#### (1) 町田市第二次野津田公園整備基本計画懇談会の目的

町田市第二次野津田公園整備基本計画懇談会（以下、懇談会、と記す）は、専門的な意見の収集、透明性の向上や市民協働の機会の拡大を図ることを目的として、「町田市第二次野津田公園整備基本計画懇談会設置要綱」に基づいて設置した。

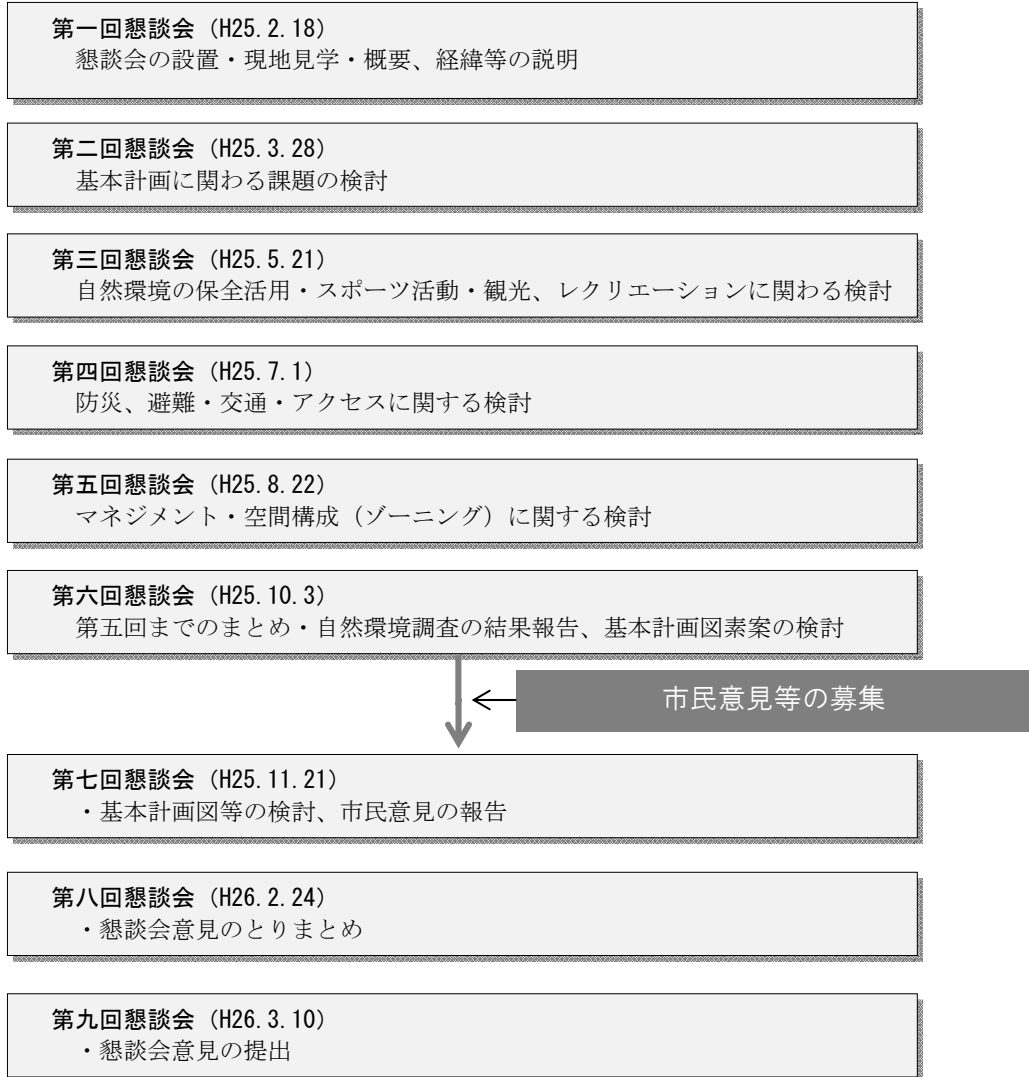
- ① 公園施設の整備に関すること
- ② 野津田公園に来園する者に係る交通の利便性に関すること
- ③ 野津田公園の自然環境に関すること
- ④ 災害が発生した場合における野津田公園の役割に関すること
- ⑤ 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項

※町田市第二次野津田公園整備基本計画懇談会設置要綱より抜粋



## (2) 懇談会での検討の流れ

懇談会では基本計画の策定にあたって、「スポーツ活動」「観光・レクリエーション」「自然環境の保全・活用」「防災・避難」「交通・アクセス」「マネジメント」の観点から検討した。下図に懇談会での検討の流れは、以下の通りである。



### (3) 検討内容の整理

懇談会で検討しまとまった主な意見は以下のとおりである。

検討項目	懇談会で出された意見（主なもの）
スポーツ活動	<ul style="list-style-type: none"><li>● スポーツとしては、気楽に出来るスポーツ（ロッククライミングや綱引きなど）、楽しみながら体を鍛えられる施設があるとよい。</li><li>● レクリエーションスポーツを楽しめるように用具等の貸出施設があるとよい。</li><li>● プロサッカーチームは、競技スポーツゾーンで活動すると同時に、上の原グラウンドでサッカー教室を行うとよい。</li><li>● 障がい者のためのスポーツ教室やウォーキングの介護やタイムトライアルなどの利用も考えてよい。</li></ul>
観光・レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"><li>● 公園には、利用者が集い、飲食や語り、交流などのレクリエーション活動が楽しめる場の整備も必要である。</li><li>● 有名レストランなどが出店したくなるような公園にする。</li><li>● 小野路屋敷を再生したようなオーガニックカフェがあってもよい。</li><li>● トレイルランは、入門的な体験ができる程度であればよいが、現状の地形（起伏）からすると本格的なものとしては相応しくない。</li></ul>
自然環境の 保全・活用	<ul style="list-style-type: none"><li>● 自然をこのまま残すべきである。</li><li>● 野津田公園の特徴である地形の活かし方や修景を考える必要がある。</li><li>● ばら園の魅力を高めるなど公園としての魅力を高める検討が必要である。</li><li>● 公園として整備された自然があってもよい。</li><li>● 何も施設がないところで遊ぶことに意義がある。</li></ul>

検討項目	懇談会で出された意見（主なもの）
防災・避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難場所等として、学校以外の空気を担保する上で野津田公園の役割は大きい。</li> <li>● 緊急輸送路、啓開道路からの物資ルートと避難ルートの検討が必要である。</li> </ul>
交通・アクセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 集客を高めるには駐車場が必要かもしれないが、里山保全活動のために多少の「不便性」はあってよい。</li> <li>● 車椅子利用には不便性があるが、園路は木チップ舗装や柔らかい土がよい。</li> <li>● 園路などは、車椅子利用に配慮して、最低でもアスファルトやコンクリート舗装にする必要がある。</li> <li>● 野津田公園の主要駅との立地特性から公共交通機関を有効な交通手段と考えるとよい。</li> </ul>
マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 官民協働の運営について、市民、ボランティア、NPO 法人と連携し継続していくためのシステムを検討することが必要である。</li> <li>● 里山を守るために里山を知ってもらうことが重要であり、ボランティアと市が共存できるシステムや定期的にイベントを行い里山を知ってもらうプログラムが必要である。</li> <li>● 古民家の再生や地域の農産物(地産地消)など地域の資源を活かし、公園を含めた地域の魅力アップを図る必要がある。</li> </ul>

## 2) 市民意見の募集

市民意見については、計画案を下記の期間に公開して意見を募集した。公開した資料等については、別途資料にまとめる。

- 意見書の数：406 通（うち無効数：33 通） 意見数：480 件
- 市民意見募集期間：2013 年 11 月 1 日～14 日

表 1-8. 市民意見の集計結果

項 目	件 数
現状維持／自然環境の保護保全の尊重	81
基本計画の方向性(スポーツ施設の増設等)の修正要望	30
素案全体の修正要望	27
その他の修正要望	20
フィールドアーチェリー場の新設要望	15
テニスコートの増設要望	22
マレットゴルフ場の新設要望	54
野球場の増設要望	10
駐車場整備やアクセス向上	14
トレイルランコース、ウォーキングコースの設置	4
サッカー場の増設要望	7
スケートボード場の新設要望	2
屋内施設（武道場、ダンス他）の新設要望	51
アスレチックの整備要望	6
バーベキュー場の整備要望	3
クアハウスの設置	95
その他の賛成	39
合 計	480

表 1-9. 市内のスポーツ団体からの意見要望一覧

	団体名	意見要望の要旨
1	軟式野球連盟	野津田公園内にナイター整備完備の公式野球場の建設を要望。
2	ソフトテニス協会	野津田公園内に公式な大会ができる全天候型テニスコート 8 面以上（新設 5 面以上の増設）及びクラブハウス（トイレ、大会開催時の本部用）と 10 坪程度の倉庫の建設を要望。
3	ソフトボール連盟	野津田公園内にソフトボール場の建設を要望。また、1 か所で 4 面使用できる少年野球、ソフトボール球場を作り、そこをサッカー競技やラグロスにも使える多目的広場とすることを要望。
4	弓道連盟	野津田公園内の、周囲を山林で囲われた比較的平坦なエリアに遠的弓道（和弓）場（長さ 70m×幅 17～9m）の開設を要望。
5	体操連盟	野津田公園内に体育館の建設を要望。
6	アーチェリー協会	野津田公園内に長距離のターゲット場及びフィールドアーチェリー場の開設を要望。
7	マレットゴルフ協会	野津田公園内にマレットゴルフ場の建設を要望（36 ホール）。
8	ダンススポーツ連盟	野津田公園内に 100 人程度で、体操・ダンス等ができる施設の設置を要望。
9	サッカー協会	野津田公園内に公式大会ができる天然芝または、人工芝のサッカー場 2 面の建設を要望。

## 8. 計画への課題

基本計画を検討するにあたっての主な課題を以下に示す。

### 1) 健康・スポーツまちづくり

- ① 競技スポーツから健康スポーツまでスポーツ活動の拠点としての活用方法の検討
- ② 誰でも気楽に楽しめるスポーツができる施設等、スポーツ団体、市民要望に基づく導入施設の検討
- ③ 地域貢献活動を視野に入れた活動空間の設定

### 2) 観光・レクリエーション

- ① 周辺の地域資源との連携を踏まえた公園施設と動線の設定
- ② 利用者が集い、飲食や語らいを楽しむ交流の場の創出
- ③ レストランなどが出店したくなるような魅力ある公園づくり

### 3) 自然資源の保全と活用

- ① 現在あるスポーツ施設のエリアと自然環境を残すエリアの区分の見直し
- ② 自然景観の保全策を踏まえた整備と管理の検討
- ③ 現況の自然環境把握と目標とする植生区分検討

### 4) 防災・避難

- ① 防災拠点としてのオープンスペース設定
- ② 緊急輸送路、啓開道路からの物資ルートと避難ルートの検討

### 5) 交通・アクセス

- ① 公園のアクセス方法についての検討
- ② 来園者（障がい者等）が利用可能な公園内のレクリエーション動線、バリアフリー動線の設定
- ③ 利用者の利便性を考慮した駐車場計画

### 6) マネジメント

- ① ボランティア団体（活動への参加者）の拡充、活動の多様化への支援策
- ② ボランティアへの参加者を増やすための情報発信機能の検討
- ③ 官民で連携し、協働運営体制を継続するための仕組みや PDCA サイクル※による管理運営の仕組づくり
- ④ 運営協議会の機能や役割の明確化

※PDCAサイクル：PLAN（計画）DO（実行）CHECK（確認）ACTION（処置）を繰り返すことで継続的改善を行う。



## 第Ⅱ章 基本計画

### 1. 基本方針の設定

#### 1) 計画テーマ（将来像）の設定

野津田公園は、北部丘陵の一部が多摩ニュータウンや既成市街地に囲まれた場所に立地し、緑豊かな環境と陸上競技場、野球場など貴重なスポーツ施設が内包される特色ある総合公園として市民に親しまれている。

公園計画の基本的な方向性は、このような立地特性や自然環境、現状の施設内容、市民の公園に対する意見に加え、市の総合計画をはじめとする上位関連計画など、多岐に渡る与条件と前章で整理した課題に対応して導くものとする。

以上の前提から、市内最大規模の総合公園にふさわしい環境と施設を備えた公園としての計画テーマ（将来像）を以下のように設定する。

#### ■計画テーマ（将来像）

自然の中で楽しむ総合スポーツパーク

#### 2) 計画目標と整備方針

計画のテーマ（将来像）に基づき、野津田公園の6つの目標を設定し、各目標別に計画の整備方針を設定する。

##### （1）競技スポーツから健康スポーツまで幅広い活動が楽しめる公園づくり

- ホームタウンチームの活動を中心とする様々なスポーツイベントに対応する空間を整備する。
- 地域の子どもやクラブチームなどが、様々なスポーツ活動を楽しむ空間を整備する。
- 個人やグループが様々な健康スポーツを楽しむ空間を整備する。
- 健康維持の基本である、「歩き」が楽しめる散策路を整備する。
- 健常者だけでなく高齢者や障がい者も楽しむための施設整備にも十分配慮する。
- 利用者の健康増進につながる情報や、専門家の指導などが受けられる機能を備える。

##### （2）多様なレクリエーション活動が楽しめ、交流が広がる公園づくり

- 各種のスポーツイベントなどが展開される、観光・レクリエーションの拠点空間を整備する。
- 里山の環境を活かした、散策、自然とのふれあい、バートウォッチングなどが

楽しめる空間を整備する。

- 利用者の集い、飲食・語り・交流などのレクリエーション活動が楽しめる場を整備する。
- 四季折々の花木や草花が楽しめる花の名所づくりを行う。
- ばら広場のより効果的な活用方法を検討し、魅力ある空間を整備する。

### (3) 自然とのふれあい活動が楽しめる公園づくり

- 公園内の自然環境について、目標植生を設定し、多様性のある里山の自然環境を守り・育てる。
- 動物についても目標種を設定し、北部丘陵の生き物ネットワーク形成の拠点にふさわしい自然環境を守り・育てる。
- 北部丘陵や野津田の豊かな自然、文化を紹介する情報発信の機能を持たせる。

### (4) 大規模災害発生時の住民避難や救援活動の拠点機能を備えた公園づくり

- 災害時における避難場所を確保する。
- 災害時における救援部隊の活動スペース及び、ヘリコプターの緊急離着陸場等にも利用できるスペースを確保する。
- 一時的な避難生活にも活用できるスペースを確保する。
- 周辺道路と公園を結ぶ、安全性の高い避難路を整備する。
- 災害時のスムーズな人や物資の移動を考慮した動線を整備する。
- 公園外周部の既存樹林を、緩衝機能を有する樹林として保全する。

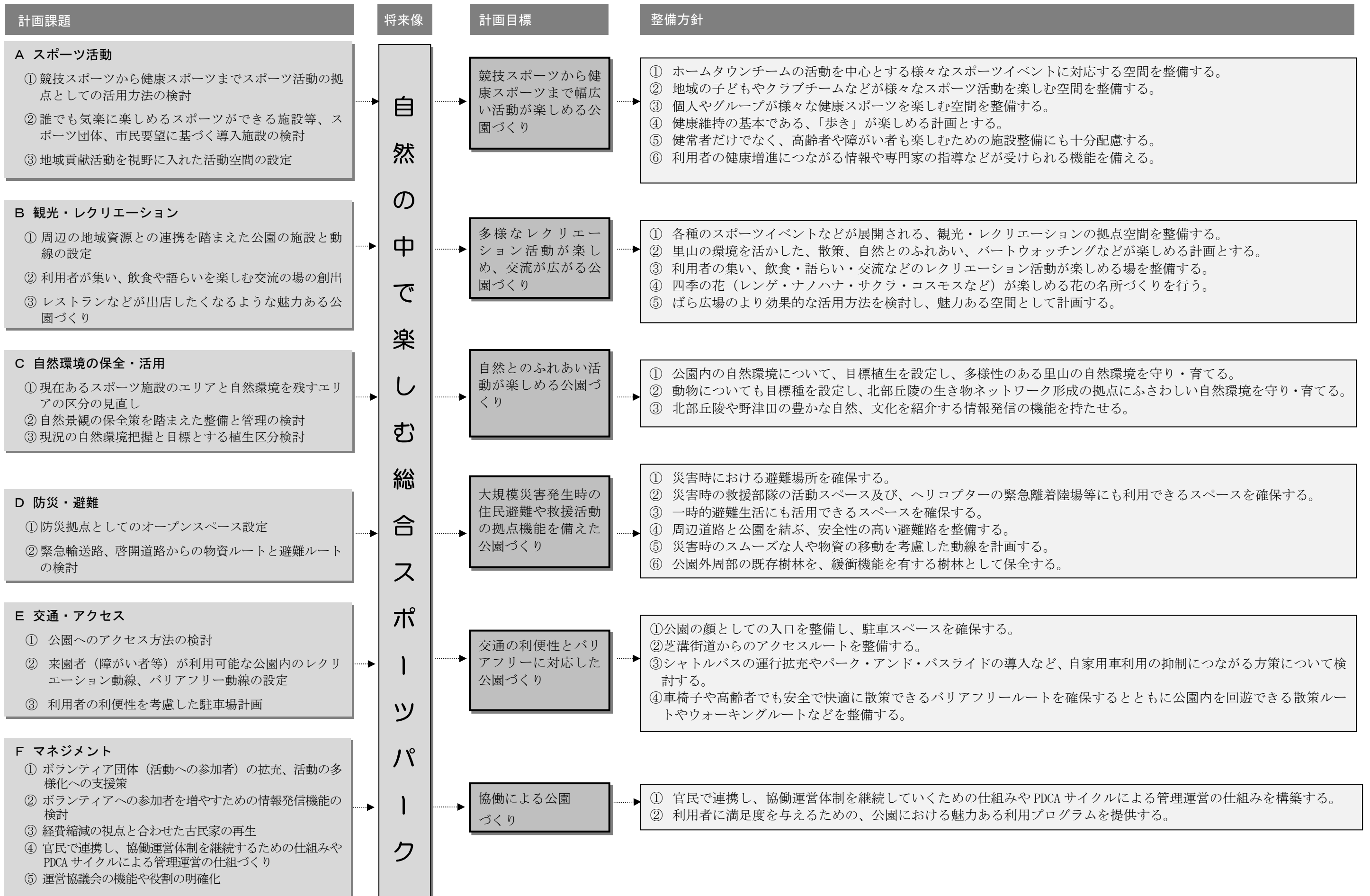
### (5) 交通の利便性とバリアフリーに対応した公園づくり

- 公園の顔としての入口を整備し、駐車スペースや路線バスの進入スペースを確保する。
- 芝溝街道からのアクセスルートを整備して南側からのアクセスの充実を図る。
- シャトルバスの運行拡充やパーク・アンド・バスライドの導入など、自家用車利用の抑制につながる方策について検討する。
- 車椅子や高齢者でも安全で快適に散策できるバリアフリールートを確保するとともに、公園内を回遊できる散策ルートやウォーキングルートなどを整備する。

### (6) 協働による公園づくり

- 官民で連携し、協働運営体制を継続していくための仕組みやPDCAサイクルによる管理運営の仕組みを構築する。
- 利用者の満足度を高めるための、公園における魅力ある利用プログラムを提供する。

■計画の基本的考え方<整備方針設定までの流れ>



## 2. ゾーニング・動線計画

### 1) 空間構成の検討

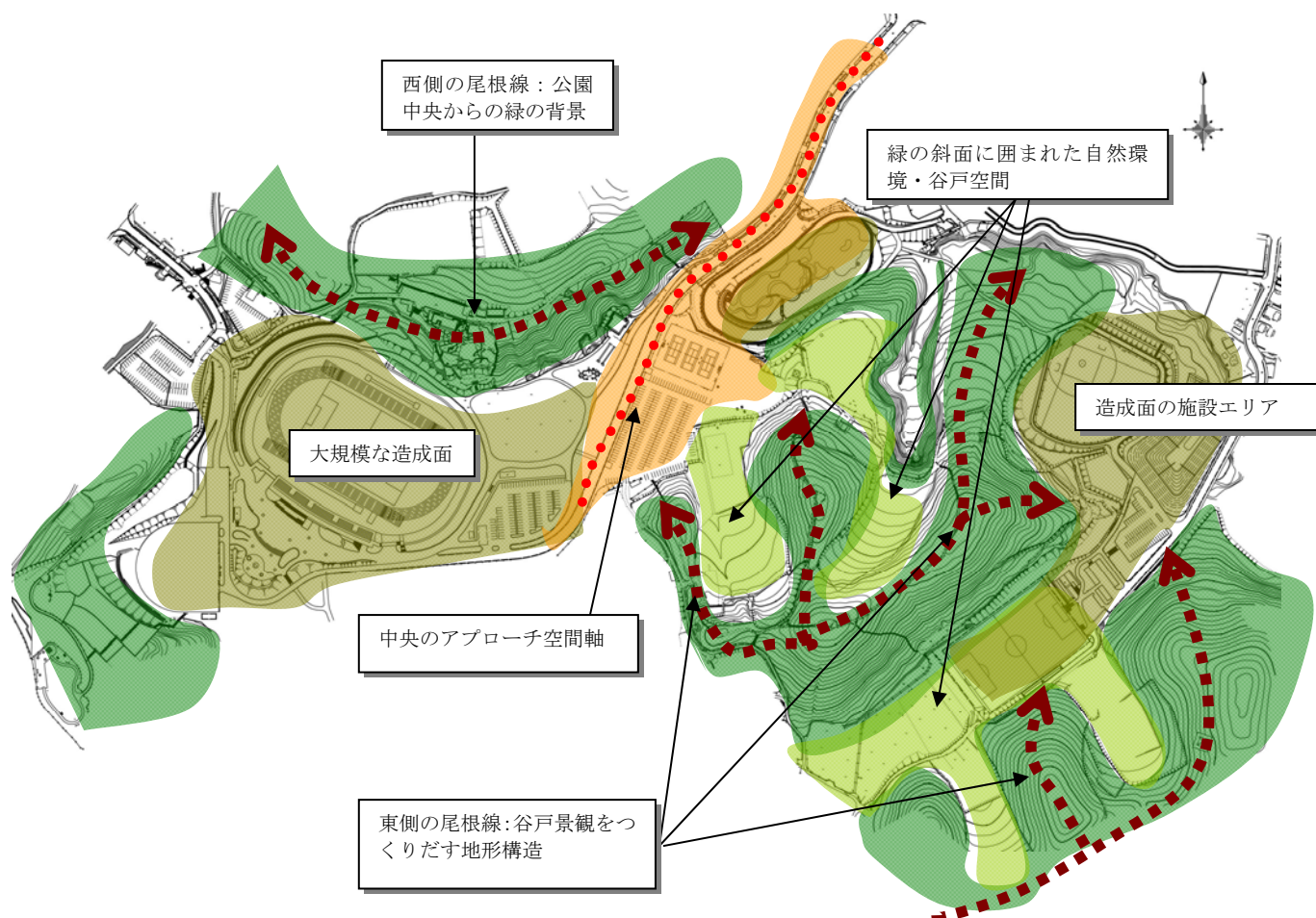
野津田公園の地形から敷地の空間構成をみると、中央のアプローチ道路が公園の中央を通る空間軸となり、東西に自然地形の尾根と谷戸地形が入り組んで野津田公園特有の複雑な空間を構成している。

公園東側は、南北に大きく張り出す3本の尾根とこれに囲まれる3つの谷戸地形で構成され、尾根と谷戸の自然環境が明確で特徴的な自然空間を構成している。

公園西側は区域北側に東西に尾根が連なるが、敷地の大半を占める陸上競技場の造成面が中央に存在するため、東側に比べると自然地形の残存区域は少ない。

公園計画の基本となる土地利用計画（ゾーニング）と動線計画は、この空間構成に基づき、これを活かしたゾーン設定と動線計画を導くものとする。

図 2-1. 野津田公園の空間構成



## 2) ゾーニング計画

野津田公園は進入路の東側と西側で大きな違いが見られる。西側は、陸上競技場等の整備により、地形の大規模な改変が認められるが、東側は尾根と谷戸が入り組んだ変化に富んだ自然地形と豊かな緑が残っている。

ゾーニング計画は、このような野津田公園の特性と前述した計画テーマ（将来像）を踏まえ、それぞれの空間構成を活かした4つのゾーンを設定し、野津田公園の土地利用計画を方向づけるものとする。

### (1) パークセンターゾーン

#### ■現況特性

野津田公園の中央部は、桜並木が続く進入路の突き当たりに、芝生広場や駐車場の広い平坦面が広がるとともに、駐車場の東側には樹林の緑に囲まれた比較的広い芝生の緩斜面が連続している。

#### ■ゾーンの位置づけ

本ゾーンは、この地形的特性と公園のメインアプローチを受ける「入口」として、また公園の「中心」として、来園者のための案内・交流・休憩機能と家族連れや日常利用のための多様なレクリエーション機能および公園全体の管理機能を集約する「パークセンターゾーン」として位置づける。

#### ■ゾーンの考え方

ゾーンを構成する空間は、既存の桜並木に導かれて入る玄関口としての広い「もてなし」の空間を設定し、野津田公園の緑を背景に空間を魅力づける花や家族が手軽に楽しめる施設で迎えるものとする。また、ゾーン南側に隣接する畑地は、その平坦な広がり公園の貴重な広場空間となるため、公園区域に取り込んで多目的に利用できる広場とする。

### (2) 競技スポーツゾーン

#### ■現況特性

公園の西側は、第三種公認陸上競技場を中心に中央駐車場や芝生広場、多目的広場などが整備され、空間的にはまとまった施設とその周りの斜面緑地で構成されている。またその北側には、ばら園のある広い谷戸が隣接する。

#### ■ゾーンの位置づけ

本ゾーンは、第三種公認陸上競技場を中心に、既存の広場や施設を活かした「する、観る、支える」スポーツの拠点ゾーンとして位置づける。

#### ■ゾーンの考え方

ゾーン構成は、陸上競技場に隣接する多目的広場や芝生広場の造成平坦面に、体育館やイベント広場を、ばら園とその東側に続く広い緩斜面には、テニスコー

ト・多目的グラウンドなどの大規模な競技施設の整備を図り、パークセンターゾーンと連携して多くの観客や利用者を迎え入れる空間とする。

### (3) レクリエーションスポーツゾーン

#### ■現況特性

公園の東側は、既設の野球場や上の原グラウンドが緑の斜面に囲まれた谷戸地形の中に整備されており、その周りは「みずき広場」などの草地の緩斜面や比較的樹林密度の低い森が点在する。

#### ■ゾーンの位置づけ

本ゾーンは、これらの既存施設や自然環境を活かしながら、自然の中で楽しめる日常的なスポーツの場として位置づける。

#### ■ゾーンの考え方

ゾーンを構成する空間と導入施設は、既存の野球場やグラウンドの他は、自然地形や樹林、草地を活かした規模の小さな施設やウォーキングなどのコースで構成し、既存の自然と一体となる利用空間を目指す。

### (4) 人と緑のふれあいゾーン

#### ■現況特性

上の原グラウンドの谷戸部とその両側の斜面は、草地や雑木林の多様な自然が展開する里山的な環境が残る。

#### ■ゾーンの位置づけ

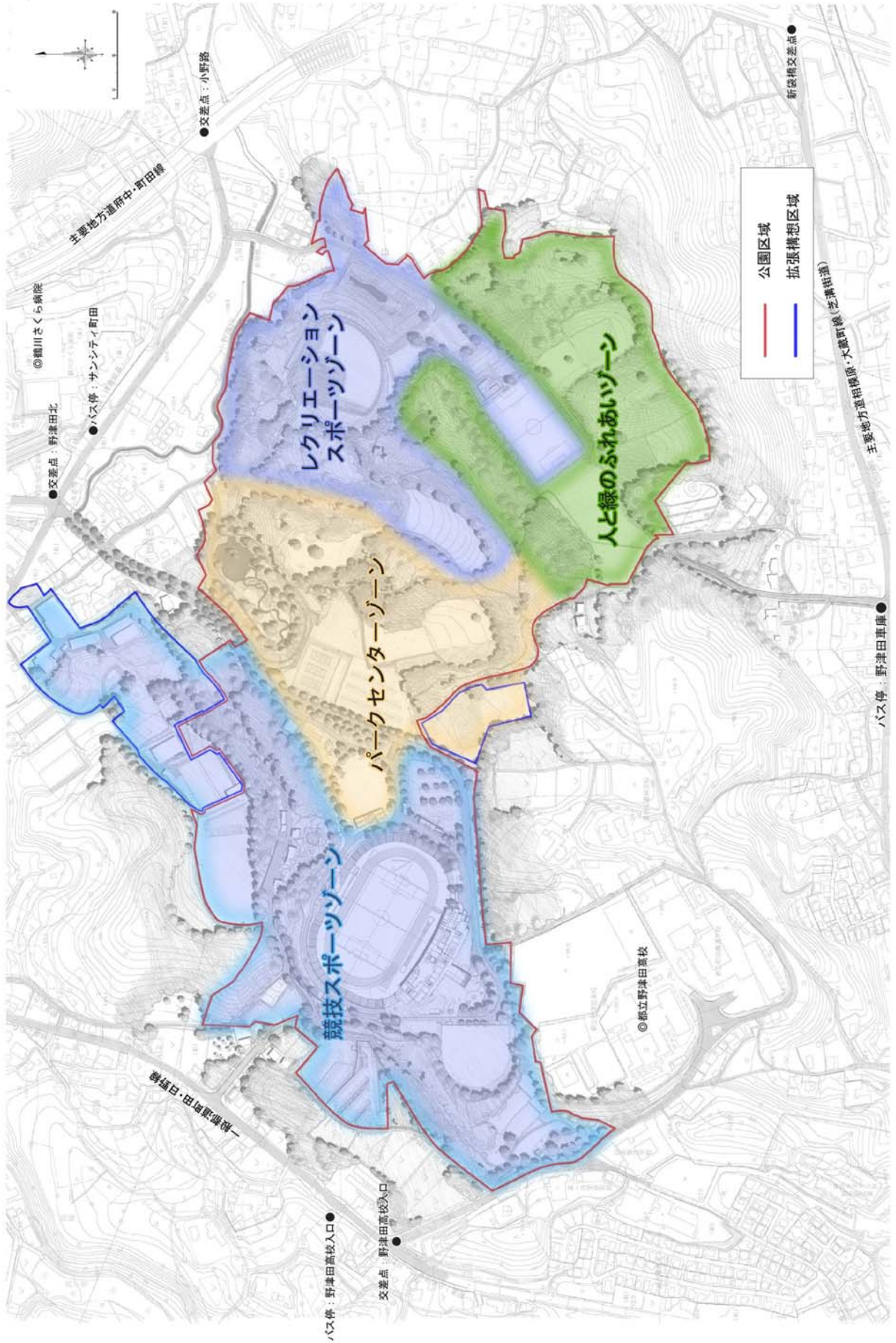
上の原はらっぱや雑木林の斜面は、自然観察や散策・子どもの自然遊びなど市民が公園の自然にふれあえる拠点ゾーンとして位置づける。

#### ■ゾーンの考え方

ゾーンの導入施設は、市民の利用や活動のための最小限の管理・便益施設にとどめ、既存の散策路や子どもの遊び場として有効活用を図るものとする。



図 2-2. ゾーニング図



### 3) 動線計画

野津田公園は、桜並木のメインアプローチから陸上競技場に至る広幅員の園路のほか、園内の主要施設を連絡する園路、尾根沿いや谷戸の広場を巡る散策路など既設の園路が多く整備されている。

動線計画は、この既設園路を活かしながら、ゾーニング計画で設定した主要施設、広場空間を効果的に連絡する以下の動線を設定する。

#### (1) 幹線園路

- ゾーン間の主要施設を連絡する幅員 3m以上の園路とし、管理車両の通行と、車椅子の通行が可能なバリアフリールートの基本とする。
- 中央部のメインアプローチからセンターゾーンの平坦面と陸上競技場にアクセスする既存園路を軸に、西側は陸上競技場周りを迂回してばら園に至るルートを、東側は進入路から野球場を経て、上の原に至るルートを幹線園路として位置づける。

#### (2) 支線園路

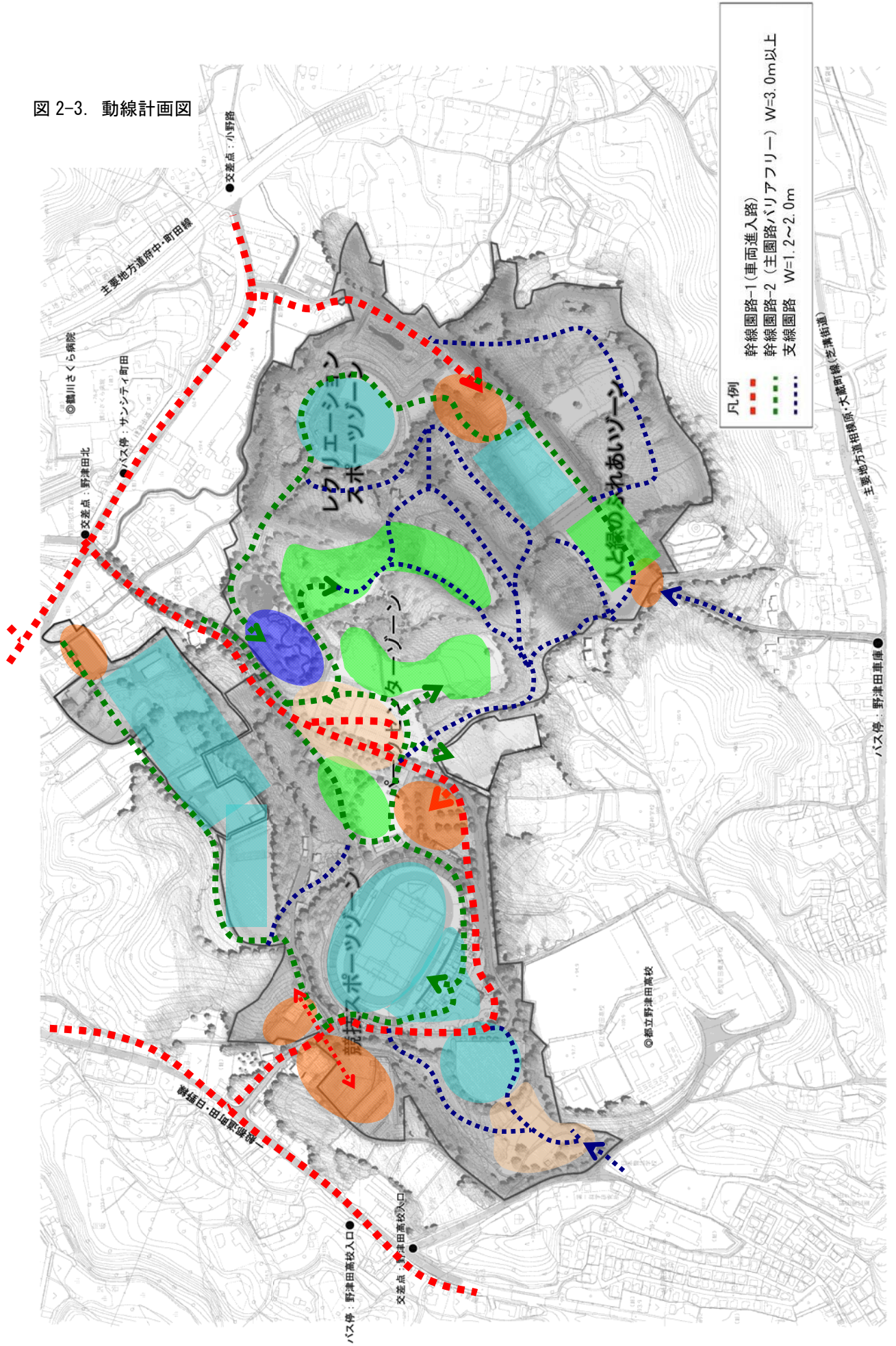
- 支線園路は、ゾーン間を連絡する動線（幹線）から各施設を連絡する動線として、さらには起伏のある尾根沿いや谷戸を巡る既設の散策路等を位置づけ、幅員は 2m～1.2m程度とし、散策路頭は自然景観に調和する自然素材の舗装を基本とする。

#### (3) アクセスルートと周辺交通計画

- 野津田公園のアクセスルートは、野津田公園北交差点から分岐する桜並木がメインルートとなり、これに加えて小野路交差点から上の原にアクセスするルートと公園西側の一般都道町田・日野線からアクセスする3つのルートがある。
- Jリーグ試合時など、大規模イベント時の利用者の集中を考慮すると、周辺交通への影響に配慮した交通アクセス計画が必要である。
- 本計画では、後述の駐車場計画も含めて野津田公園へアクセスする車両などの分散化を図り、特にイベント時には、桜並木のルートは一般車の進入を規制して路線バス専用のアクセスルートとし、一般車は西側都道から西および中央駐車場へアクセスするルートと、小野路交差点側から東駐車場へアクセスするルートに分散させるものとする。
- なお、公園南側の野津田車庫前からのアクセスや野津田高校側からのアクセスは、現時点では特に設定されていないが、上記3ルートへの集中をさらに分散させる意味では、路線バス・シャトルバスなどの利用拡大に伴うアクセスルートの検討も重要である。



図 2-3. 動線計画図



### 3. 公園利用者数の設定

#### 1) 公園利用者数の予測

野津田公園の公園利用者数の予測は、都市公園の利用者数（全国平均データ）からの算出と野津田公園の対象エリアの適正利用密度からの算出を行い、双方の結果から設定する。

##### (1) 全国平均データからの算出

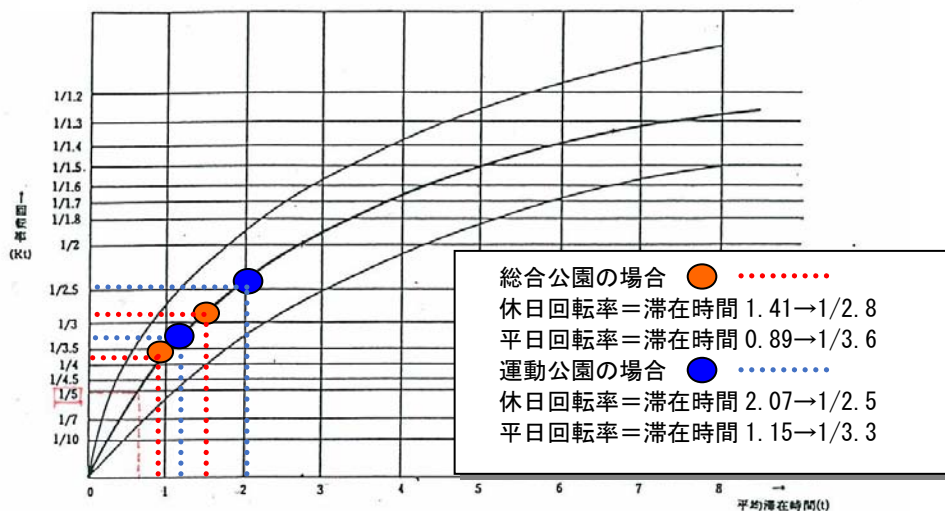
野津田公園の平均入園者数は「全国都市公園利用実態調査（平成19年度）国土交通省、財団法人 公園緑地管理財団」の結果より、総合公園及び運動公園の平均利用可能面積（ha）当たりの利用者数から算定する。

・利用可能面積：公園総面積約40.0haのうち、水面や立入り不可の樹林地等を除いた面積約15.0ha

表 2-1

		街区	近隣	地区	運動	総合	広域	国営
平均利用可能面積	ha/ヶ所	0.286	1.392	3.474	19.924	19.449	45.181	77.084
平均入園者数	休日 人	218	722	1,480	4,882	3,404	4,964	9,780
	平日 人	224	609	1,068	2,639	2,316	2,382	2,898
haあたり入園者数	休日 人/ha	761	519	426	245	175	110	127
	平日 人/ha	782	438	308	132	119	53	38
平均在園時間※1	時間	0.86	1.07	1.29	2.21	1.61	2.00	2.34
平均在園時間※2	休日 時間	1.01	0.72	1.03	2.07	1.41	1.89	2.64
	平日 時間	0.53	0.59	0.75	1.15	0.89	1.67	1.96
平均到達時間※3	分	12.3	15.5	20.2	26.5	28.5	39.7	61.0
80%到達時間※4	分	14.9	22.4	28.1	42.6	43.6	63.9	103.0
平均来園頻度※5	回/月	10.3	9.7	8.9	6.4	5.8	4.4	0.9
リピーター率	%	92.9	93.6	90.8	93.5	91.0	87.4	68.6
平均誘致圏人口	人	2,998	6,757	20,122	-	-	-	-
平均誘致圏老年人口	人	624	1,497	4,427	-	-	-	-
公園利用率	休日 %	7.5	10.7	6.5	-	-	-	-
	平日 %	7.5	9.4	5.2	-	-	-	-
老年公園利用率	休日 %	4.8	8.1	4.5	-	-	-	-
	平日 %	5.5	8.3	4.4	-	-	-	-
徒歩・自転車利用率	%	78.5	69.8	57.9	37.8	36.5	21.0	8.8
自転車利用率	%	20.9	22.0	16.7	14.5	12.8	8.7	5.3

図 2-4  
日入込量における滞留時間と回転率



調査結果一覧から、休日と平日 1 日の平均利用者数を算出すると以下のとおりである。

・総合公園の場合

■休日=2,625人 (175人/ha×15.0ha)

■平日=1,785人 (119人/ha×15.0ha)

・運動公園の場合

■休日=3,675人 (245人/ha×15.0ha)

■平日=1,980人 (132人/ha×15.0ha)

また、基準日における最大時利用者数（同時滞在者数）は、上記利用者数（平均日）に平均在園時間を考慮して、1日の利用回転率を乗じて算出する。

・総合公園の場合

■休日：平均在園時間=1.41時間、回転率=1/2.8より

休日の最大時利用者数（同時滞在者数）=2,625×1/2.8=937人

■平日：平均在園時間=0.89時間、回転率=1/3.6

平日の最大時利用者数（同時滞在者数）=1,785×1/3.6=495人

・運動公園の場合

■休日：平均在園時間=2.07時間、回転率=1/2.5より

休日の最大時利用者数（同時滞在者数）=3,675×1/2.5=1470人

■平日：平均在園時間=1.15時間、回転率=1/3.3

平日の最大時利用者数（同時滞在者数）=1,980×1/3.3=600人

以上の考察から、野津田公園の最大時利用者数（基準日）は、利用者の多い休日では937人～1470人である。この数値はあくまで全国の都市公園（総合公園、運動公園）の利用実態データに基づくものであるため、以下に野津田公園の計画に基づく適正利用密度からの算出を行い、利用者数を確認する。

## (2) 野津田公園の適正利用密度からの算出

野津田公園は、総合公園ではあるが陸上競技場やサッカー場、野球場を有し、集客性の高い施設を有する公園である。そこで、スポーツ施設についてはその収容力を、また広場等のレクリエーション利用空間についてはその適正利用密度から最大時の利用者数を算出する。

### ■計画スポーツ施設の利用者数（収容力）

	Jリーグ時	通常時	備 考
陸上競技場	10,000 人	80 人	試合時:スタンド収容人数 通常時:陸上競技練習
多目的グラウンド	60 人	60 人	サッカー15人/チーム×4チーム
テニスコート	120 人	120 人	5人/組×2組/面×12面
壁打ちテニス	10 人	10 人	3面×3~4人
野球場	80 人	80 人	20人/チーム×4チーム
<b>計</b>	<b>10,270 人</b>	<b>350 人</b>	

スポーツ施設のうち陸上競技場は、Jリーグの試合時に大幅な利用者増が見込まれるため、スポーツ施設利用者数は以下の2つのパターンが想定される。

- ① Jリーグ時 : 10,270 人  
 ② 試合以外の日（通常時）: 350 人

### ■広場等のレクリエーション空間

- ①入口広場（ウエルカムガーデン）・芝生広場・遊具広場等の平坦な広場＝計 58,200 m<sup>2</sup>のうち、30%が施設や植栽地等の有する面積とすると、利用可能面積は約 41,000 m<sup>2</sup>

適正利用密度を 10 m<sup>2</sup>/人（自然公園園地適正密度：「自然公園施設の計量計画」糸賀 1969 の密度から 20 m<sup>2</sup>/人の 2 倍の密度）に想定すると

$$41,000 \text{ m}^2 \text{ (利用面積)} \div 10 \text{ m}^2/\text{人} \approx 4,100 \text{ 人}$$

- ②緩斜面のピクニック広場など＝21,200 m<sup>2</sup>のうち、20%が植栽地等の有する面積とすると、利用可能面積は約 17,000 m<sup>2</sup>

適正利用密度を 30 m<sup>2</sup>/人（平坦地の 2/3 倍）に想定すると

$$17,000 \text{ m}^2 \text{ (利用面積)} \div 30 \text{ m}^2/\text{人} \approx 570 \text{ 人}$$

- ③スキ草地のような丘陵地斜面＝10,000 m<sup>2</sup>のうち、90%が急な斜面地等で利用が困難な面積とすると、利用可能面積は約 1,000 m<sup>2</sup>

適正利用密度は、園路等の線的使用に限定して 50 m<sup>2</sup>/人に想定すると

$$1,000 \text{ m}^2 \text{ (利用面積=1/10)} \div 50 \text{ m}^2/\text{人} \approx 20 \text{ 人}$$



- ④園路途中の小広場、尾根上の平坦面=3,350 m<sup>2</sup>のうち、50%が樹林地等の有する面積とすると、利用可能面積は約 17,00 m<sup>2</sup>、  
適正利用密度を 20 m<sup>2</sup>/人に想定すると

$$1,700 \text{ m}^2 \div 20 \text{ m}^2/\text{人} \doteq 85 \text{ 人}$$

(ア) ~ (エ) 合計=4,700 人

これにスポーツ施設の 10,270 人および 350 人を加えると J リーグ時:約 15,000 人と通常時:約 5,000 人の二つのパターンになる。

### (3) 野津田公園の利用者数の想定

以上の考察から、利用実態調査データの最大値:1,470 人と適正利用密度の 5,000 人(15,000 人)には大きな差がある。

利用実態調査データは、年間の休日の平均値であり、適正利用密度は公園内すべての空間が利用される年間のピーク時期と考えると、計画基準日(年間ピークの 3~5 番目に利用者が多い日)の利用者数は 2 つの値の中間値で設定すべきと考える。

#### ■計画基準日の最大時利用者数

$$\begin{aligned} & (\text{利用実態調査データによる利用者数} + \text{適正利用密度からの利用者数}) \div 2 \\ & = (1,470 + 5,000 \text{ 人}) \div 2 \doteq \text{約 } 3,200 \text{ 人} \end{aligned}$$

※なお、J リーグの試合開催時の約 15,000 人は、特殊要因として別途計上する。

## 2) 駐車場必要台数(参考)

上記 3,200 人の規模で公園の駐車場必要台数を試算すると以下のとおりである。

駐車場の必要台数は、計画基準日の最大時利用者数に自動車利用率と 1 台当たりの乗用人数から算出する。

$$\text{必要台数} = \text{最大時利用者数} \times \text{利用率} (\%) \div 3.5 \text{ 人/台}$$

$$\text{自動車利用率} = 50.3 \sim 50.6\% \text{ (全国利用実態調査より)}$$

$$\begin{aligned} & 3,200 \text{ 人} \times 0.506 \div 3.5 \text{ 人} = 462 \text{ 台} \\ & (\text{J リーグ試合開催時}) 15,000 \text{ 人} \times 0.506 \div 3.5 \text{ 人} = 2,168 \text{ 台} \end{aligned}$$

公園の立地特性を考慮すると、路線バスや徒歩による利用率が低いため自動車利用率は 60%以上の数値となることが想定される。

そこで J リーグ試合以外の場合は、自動車利用率を 60%に設定すると駐車場の必要台数は 550 台程度となる。

$$3,200 \text{ 人} \times 0.60 \div 3.5 \text{ 人} \doteq 550 \text{ 台}$$

## 4. 導入施設の検討と設定

### 1) 主要導入施設の計画方針

計画にあたっては、公園の現況施設の整備状況と周辺区域を含めた地形・植生などの自然特性を考慮しながら、自然環境や空間構成に整合した施設の選定と具体的な配置計画を行うものとする。

また主要導入施設の配置は、ゾーニング計画で設定した空間の考え方を踏まえ、各ゾーンの空間構成にふさわしい施設内容、構成とする。以下に各ゾーンにおける主要施設整備の考え方を示す。

#### (1) パークセンターゾーン

公園の玄関口として、進入路の突きあたりに大型の建築物（パークセンター）でランドマークをつくり利用者の案内・管理運営の拠点とする他、周辺部は季節の花で彩る庭空間で公園利用者の集合離散場所としての十分な広さを確保する。

子どもの遊び場は、玄関口からその存在が目立つよう、大型の特徴ある遊具や山の斜面から見え隠れするローラー滑り台などで自然の中の遊び場を創出する他、大人から子どもまで家族で楽しめる多様な遊びの要素・魅力を提供する。

■主要施設：パークセンター（管理棟＋レストハウス）、ウエルカムガーデン・ばら園、イベント広場、大型遊具、ピクニック広場、ローラースケート場など

#### (2) 競技スポーツゾーン

陸上競技場の周りには、これを補完してサブグラウンド的な機能を有するスポーツコートや室内運動拠点となる体育館を追加整備する。陸上競技場北側の谷戸部には公式試合も可能なテニスコート（12面）とサッカー等の多目的グラウンドを整備し、夜間照明の設置など利用時間の拡大も可能な仕様とする。

■主要施設：陸上競技場（既設）、体育館（中規模）、多目的スポーツコート、テニスコート（12面）、多目的グラウンド（サッカー場）、壁打ちテニスコートなど

#### (3) レクリエーションスポーツゾーン

公園東側の野球場、上の原グラウンド等既存施設の充実のほか、弓道・アーチェリーは公式試合用のコースと施設（35m×35m屋根付運動場）の導入を図る。ゾーンの大半を占める自然地形と樹林地はこれを保全活用しながらルート型のレクリエーションスポーツ施設（マレットゴルフ、フィールドアーチェリー等）を整備する。

■主要施設：上の原グラウンド（既設改修）、野球場（既設改修）、マレットゴルフコース、フィールドアーチェリーコース、屋根付運動場、弓道兼アーチェリー場、ウォーキングコースなど

#### (4) 人と緑のふれあいゾーン

上の原はらっぱや雑木林、草地の丘陵地など既存の自然空間での活動や散策などが気軽にできるよう、歩きやすい散策路や解説板などのサインの充実を図るとともに、ゾーンの南側エントランス部分に自然活動の拠点となるネイチャーセンターを整備する。

■主要施設：上の原はらっぱ（既存）、既存樹林内散策路・観察林（東屋、解説版、観察路など）、子ども自然遊び場、転回広場、ネイチャーセンター（自然活動拠点、休憩施設、管理施設など）

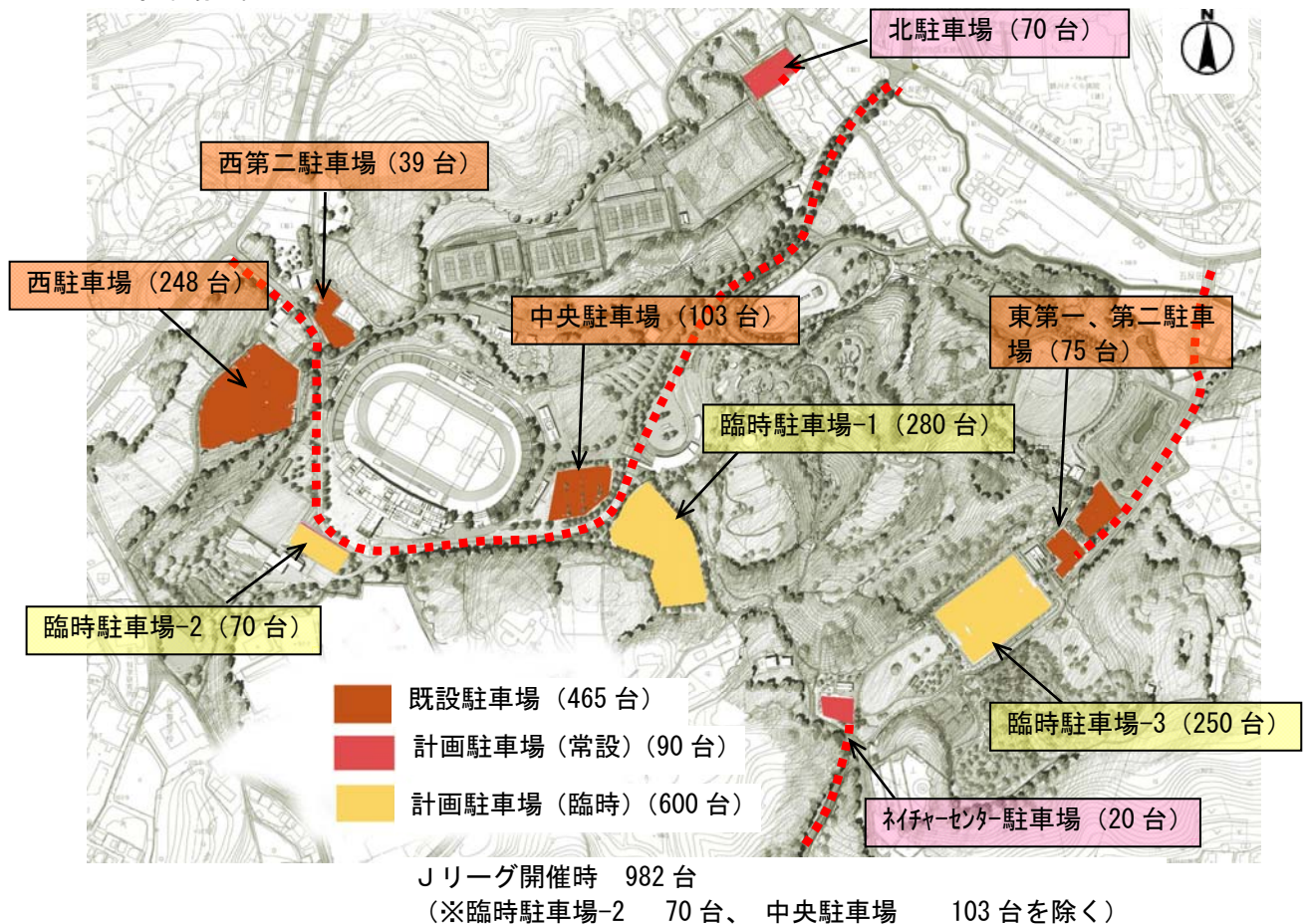
#### 2) 駐車場計画

野津田公園の駐車場は、前述の必要台数の算定に基づき常設と臨時駐車場に分けて計画する。（常設駐車場で555台、臨時駐車場で600台、計1155台）

常設駐車場は、既設駐車場をそのまま存続するものと、拡張区域にスポーツ施設を導入する北入口部に1箇所、ネイチャーセンターを整備する南側に1箇所、計2箇所新設する。

既設駐車場は中央第二駐車場区域がパークセンターゾーンとして整備することにより、現況より少ない台数となるが、中央拡張部に約280台収容可能な多目的広場を計画していることから、Jリーグの試合等イベント開催時に多くの来園者が見込まれる時は、臨時駐車場を開放して受け入れるものとする。

図 2-5. 駐車場配置計画図



3) 導入施設の規模と整備計画の概要

ゾーン名	主要施設	規模	単位	計画概要	備考
パークセンターゾーン	1. パークセンター	1,500	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野津田公園のメイン入口正面に位置するインフォメーション・管理・交流機能を有する施設。公園利用者への案内や公園を紹介するギャラリー・研修室などの他、カフェや売店・休憩コーナーを併設する。</li> <li>屋上は、四季折々の花を楽しむ「花のガーデン」とし、イベント広場とブリッジで連絡する。</li> </ul>	
	2. ウェルカムガーデン（ばら園）	10,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パークセンターとバスロータリー周辺に広がる公園の入口広場。広場内とその周辺には、ばら広場から移設したばら園が空間の流れに沿って帯状に展開し、ばらの香りと彩りが公園利用者を迎える。</li> </ul>	ばら園面積（ウェルカムガーデンのばら園+ばら園）=3,800 m <sup>2</sup>
	3. ばら園	1,400	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>村野常右衛門生家の前庭として、ウェルカムガーデンのばらを提供するばらの育成園を整備する。</li> <li>既存のばら広場と同規模の株数を本ばら園とウェルカムガーデンに集約させて、来園者が最初に目につくとともに、ダイナミックな花空間を印象づけるものとする。</li> </ul>	
	4. イベント広場	4,300	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既設の芝生広場を存続させて、芝生のイベント広場として位置づける。通常はばら園に面した休憩広場として利用するが、陸上競技場やJリーグの試合時には観客のエントランス広場や関連イベントの場として利用する。</li> </ul>	
	5. エントランス道路	W=20	m	<ul style="list-style-type: none"> <li>桜並木の歩道部を改修し、新しい公園の進入路にふさわしい道空間を整備する。エントランス広場の突き当りは、Jリーグの試合時には、路線バスの乗降場のあるロータリー（連節バス用）とし、一般車両と分離する。</li> </ul>	
	6. 多目的広場	8,500	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エントランス広場の南側に広がる畑地を公園に取り込み、平坦な地形を活かした多目的広場として整備する。</li> <li>大会時には、臨時駐車場として利用する。</li> </ul>	臨時駐車場-1：280 台
	7. わんぱく広場	3,800	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エントランス広場東側の平場に、複合遊具やふわふわドームなどを配置した子ども達の遊び場を整備する。</li> <li>遊具周辺は、子どもを見守る木陰やベンチ、あずまやなどの休憩施設を配置する。</li> </ul>	複合遊具は既設遊具を移設、増設
	8. 冒険の森	4,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わんぱく広場の東側の緩斜面にはアスレチック遊具や健康運動遊具を、南側の丘陵地の林間には山頂から滑り降りるローラー滑り台などを整備する。わんぱく広場と連携して、家族で体を動かしながら楽しめる場とする。</li> </ul>	
	9. ピクニック広場	11,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わんぱく広場南側の広い谷戸部（草地）を活用して、バーベキューやピクニックができる広場とする。谷戸の入口部は、小規模のふれあい動物園を整備し、背景の広場とわんぱく広場の中継地とする。</li> </ul>	
	10. スケートパーク	5,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進入路に隣接する雨水調整池の一部は、その窪地状の独立した空間形状を活かしながら、家族で楽しむ、インラインスケート、スケートボード、BMX等のニュースポーツを行える施設を取り入れる。</li> </ul>	
競技スポーツゾーン	11. 体育館	1,800	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技場西側の多目的広場に、室内競技用の体育館を整備する。規模はバレーボールコート2面、バスケットボール1面がとれる45m×25mのアリーナとする他、これに隣接してシャワー・更衣室のある管理棟を併設する。</li> <li>屋上は、背後の四季彩花園に直接アクセスできる屋上緑化の庭とする。</li> </ul>	管理用駐車場：15 台 西駐車場：248 台 西第二駐車場：39 台
	12. スポーツコート	5,200	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館前は40m×60mの芝生と、25m×60mの舗装のスポーツコートを整備する。</li> <li>芝コートはフットサルやゲートボールなどができる場とし、舗装コートは子どもを中心とした自転車乗り場等とする他、Jリーグの試合時には70台程度の臨時駐車場とする。</li> </ul>	臨時駐車場-2：70 台
	13. 四季彩花園	4,800	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館東側の造成法面に体育館と多目的スポーツコートを結ぶ階段を整備するとともに、北側回遊園路からのスロープをバリアフリーの基準に沿った斜路に改修する。</li> <li>法面上は四季折々の花やかん木を追加し、法面全体に彩りを添える。</li> </ul>	
	14. 多目的スポーツコート	2,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展望広場の利用活性化を図るために、中央の植栽地と園路を一体化した舗装広場に改修する。近隣の学校、事業所等の身近な運動場所としてスリーオンスリーなどができるようにするとともに、路線バスの待機場としての利用も検討する。</li> </ul>	
	15. 中央駐車場	4,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既設駐車場の舗装、植栽を改修する。Jリーグ試合時には、イベント広場として活用する。</li> </ul>	中央駐車場：103 台
	16. テニスコート	12	面	<ul style="list-style-type: none"> <li>現況のばら広場とその東側を拡張して、公式試合への対応も可能なテニスコート12面（内1面はセンターコート）を整備する。付帯施設としては観客席、夜間照明、管理棟、倉庫、壁打ちテニスなどを整備する。</li> <li>規模的には、サッカー場も含めてクラブハウスが必要となるので小野路屋敷を改修して対応する。</li> </ul>	
	17. 多目的グラウンド	8,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テニスコートの東側に上の原グラウンドと同規模のサッカー等のできる人工芝のグラウンドを整備する。</li> <li>付帯施設は、防球ネット・夜間照明・スコアボード・観客席など公式試合への対応も考慮する。</li> </ul>	北駐車場：70 台

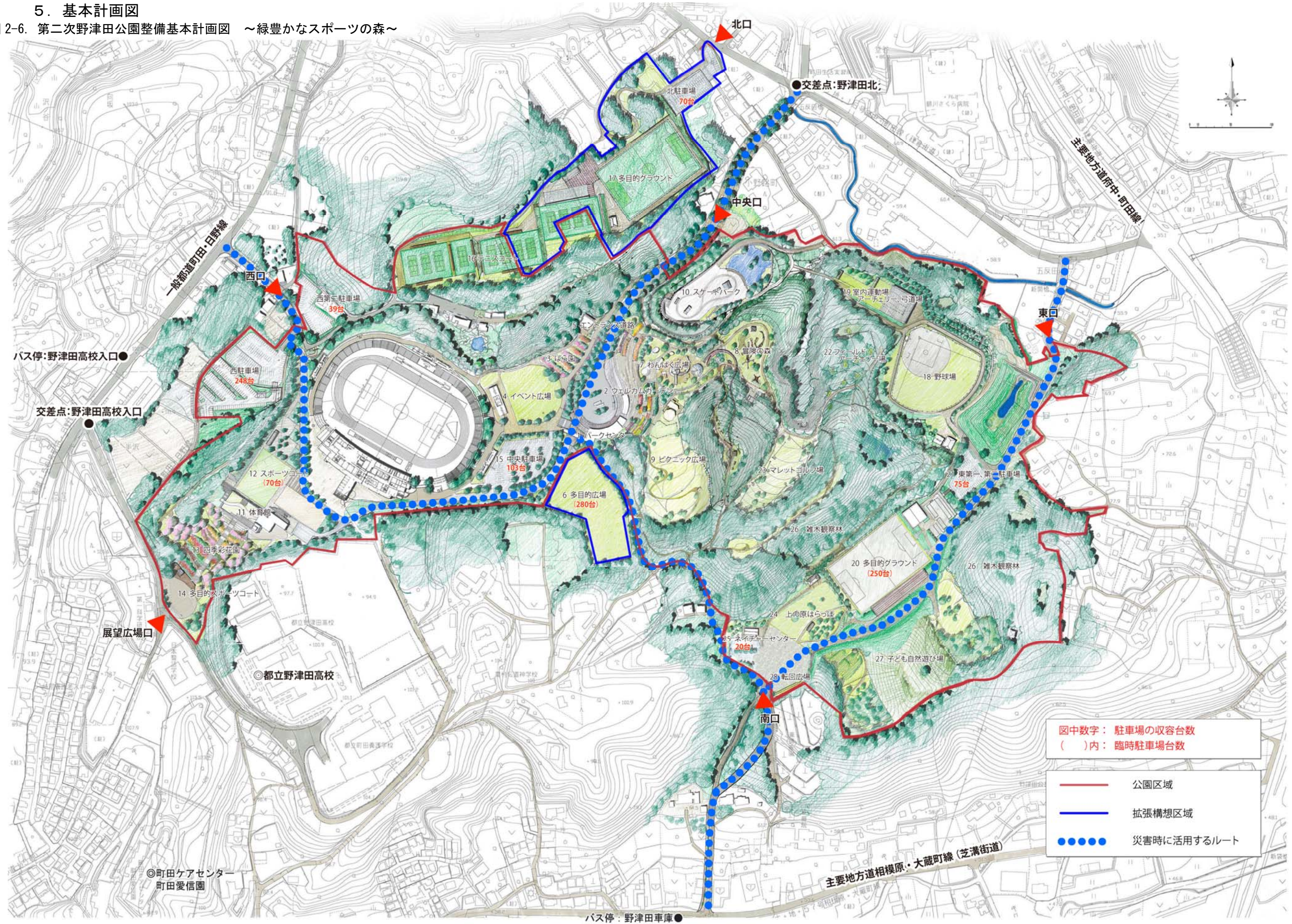


ゾーン名	主要施設	規模	単位	計画概要	備考
レクリエーションスポーツゾーン	18. 野球場	12,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既設野球場を活かし、夜間照明や管理棟を整備して野球場の機能向上を図る。なお、管理棟やトイレは野球場北側に隣接する屋根付運動場の中に併設する。</li> </ul>	
	19. 屋根付運動場、アーチェリー・弓道場	3,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野球場北側とその周辺に、30m級と90m級のアーチェリー・弓道ができる人工芝コートを整備し、射場を含めた35m四方をテント等の屋根で覆う。</li> <li>屋根付運動場は、雨天時のトレーニングやキャッチボール、フットサルなどの練習にも使用できるものとする。</li> </ul>	屋根付運動場：1,250 m <sup>2</sup>
	20. 多目的グラウンド（臨時駐車場）	8,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の「上の原グラウンド」は、市民のサッカー練習やスポーツ広場として親しまれているため、観客席やクラブハウスを整備しスポーツ環境を充実させる。</li> <li>Jリーグ試合時には、臨時駐車場として機能させることも可能とする。</li> </ul>	臨時駐車場-3：250 台
	21. 東第一駐車場、東第二駐車場	3,500	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多目的グラウンドと野球場の間に、約75台収容の駐車場を整備する。一部は既設駐車場を活かしたものとし、東第二駐車場は野球場横の空地に拡張整備する。</li> </ul>	東第一駐車場：50 台 東第二駐車場：25 台
	22. フィールドアーチェリー場	1,260	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野球場西側緩斜面の疎林内に、林間のフィールドアーチェリーコースを設定する。コースは、競技時に的を仮設的に設置することで対応する。</li> <li>標準コース=12コース×2ラウンド、コース長：10～60m（5m刻み）平均35mとしてコース面積=35m×W3m×12コース=1,260 m<sup>2</sup></li> </ul>	
	23. マレットゴルフ場	1,800	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野球場南西側のみずき広場の林縁部に、自然に親しみながら広場周辺をめぐるマレットゴルフコースを設定する。コースは既存地形を活かしながら林縁部を巡るコース設定とし、自然の中で楽しむマレットゴルフ場として位置づける。</li> <li>標準コース：18ホール、コース長：30m、50m、70m（平均50m）としてコース面積=50m×W2m×18ホール=1,800 m<sup>2</sup></li> </ul>	
人と緑のふれあいゾーン	24. 上の原はらっぱ	9,700	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上の原の南側に広がる草地を保全し、ボランティアの活動などさまざまな活動の場とする。</li> </ul>	
	25. ネイチャーセンター（自然館）	150	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑の活動や遊びを通じた自然とのふれあい、市民の交流拠点として、上の原はらっぱの入口にネイチャーセンター（道具の貸し出し、ネイチャーギャラリー、談話室、軽飲食スペース、トイレ等）を置く。</li> <li>ネイチャーセンターは、20台程度の管理・利用者用駐車場を整備し、南口からの利用者の利便性を図る。</li> </ul>	南口駐車場：20 台
	26. 雑木観察林	8,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上の原はらっぱ北側斜面に広がる雑木林は、良好なクヌギ・コナラ林（二次林）を形成しているため、既設散策路を活かして、雑木観察林として保全・育成する。</li> <li>雑木観察林は、林床の整理や古木の間伐、密度調整などの管理作業により、将来にわたって良好な二次林を持続させるとともに、上の原はらっぱと連携する多様な自然環境とこれを利用する活動の場として位置づける。</li> </ul>	
	27. 子ども自然遊び場	16,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が自然を活かして遊べる空間を整備する。</li> </ul>	
	28. 転回広場	2,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大型車の転回広場を整備する</li> </ul>	



5. 基本計画図

図 2-6. 第二次野津田公園整備基本計画図 ～緑豊かなスポーツの森～





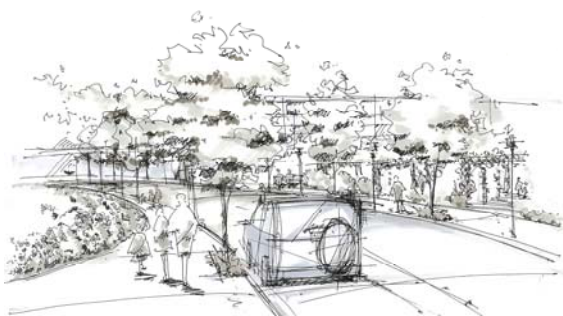
## 6. 個別計画

4つのゾーン毎の空間構成、施設配置、交通アクセス、防災等を具体的に検討し、個別計画として以下にまとめる。

### 1) パークセンターゾーン

#### (1) 空間構成と施設配置

- 野津田公園の中心に位置する公園利用者の入口空間として位置づける。現況の進入路の東側に位置する平坦地（約 11,000 m<sup>2</sup>の規模）が広がるため、この広場空間を活用して進入路のロータリーとウェルカムガーデンを配置する。
- ロータリーは、将来の路線バス（連節バス）の乗降場と回転を想定して半径 20m以上の回転スペースを確保するとともに、ロータリー内はタクシープールとする。
- ウェルカムガーデンは、ロータリーの空間の流れと一体化する特徴的な空間デザインとし、パークセンターの建築もガーデン空間と調和する特徴的なデザインとする。
- ガーデンの東側に続く緩斜面の広場には、地形をそのまま活かした大型遊具やアスレチック遊具のある「わんぱく広場」と「冒険の森」を、その南側にはピクニック広場を配置し、公園入口に家族で楽しむにぎわいのある空間を創出する。
- 西側の陸上競技場前の広場は、イベント機能を有する空間とする。村野常右衛門生家前とロータリー沿いの斜面にばら（ばら園）を配置し、ウェルカムガーデンより一段高い空間へ、花で利用者を導く。
- スケートパークは、周囲から孤立した調整池の底面西側一体に整備し、家族や若者でにぎわう遊びの空間として整備する。整備にあたっては、雨水調整機能を損なわないよう、調整容量や降雨時の滞水を考慮した構造とする。



## (2) 交通アクセス

- 公園へのアクセスは、野津田北交差点より南下する桜並木（進入路）がメインアプローチとなり、通常は一般車の進入と路線バス、タクシーが通行可能とし、一般車はロータリーを経て中央駐車場へとアクセスする。
- イベント開催時は、進入路は路線バスとタクシー専用とし、一般車両は西口や東口から分散してアクセスする。

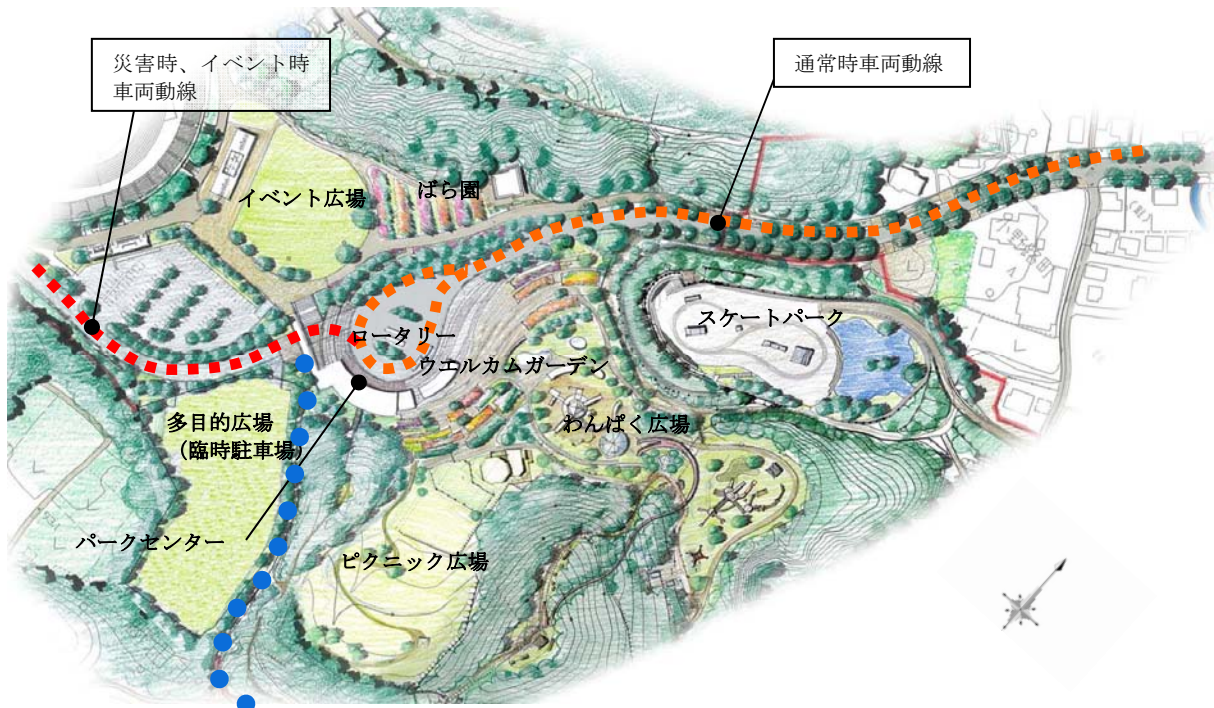
## (3) 防災

- 災害時の野津田公園は、地域住民の避難場所として、また自衛隊等の災害救助支援場所として位置づける。センターゾーンはパークセンターを災害時の活動拠点施設として機能させるほか、ウエルカムガーデン、ロータリー、わんぱく広場一帯を救援車両・機材置き場スペースとして位置づける。



- 人と緑のふれあいゾーンとのアクセス路を充実する。
- ロータリーから陸上競技場を経て西口に至る幹線園路は、都立野津田高校側と通じる一般都道町田・日野線と連絡する園内通路として機能するとともに、多目的広場（臨時駐車場）や陸上競技場スタンド、体育館等と連絡する災害時の重要なルートとなる。
- ゾーンの南側拡張区域に計画する多目的広場は、広い平坦面と周囲に高圧線や照明柱等の障害物がないため、ヘリポートとして活用する。

図 2-7. パークセンター周辺拡大図





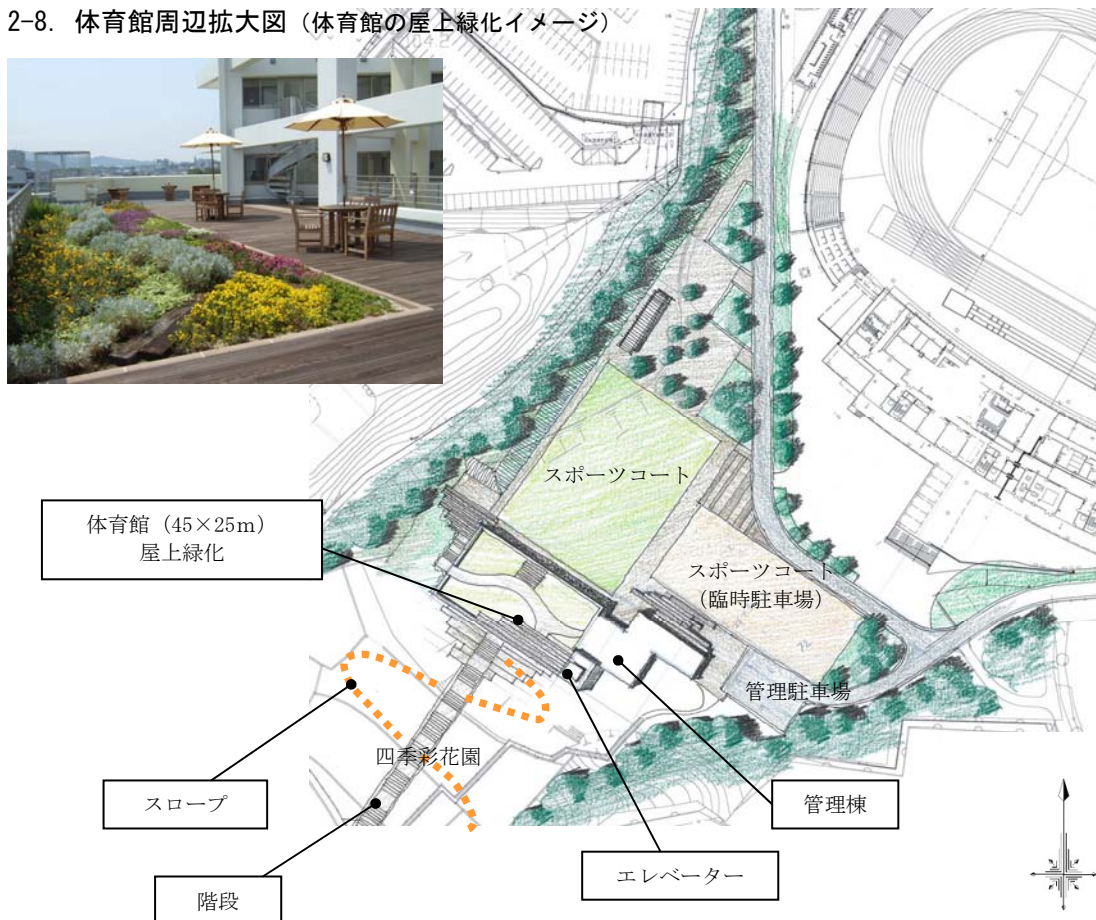
## 2) 競技スポーツゾーン

### (1) 空間構成と施設配置

- 本ゾーンは、競技スポーツ施設とその付帯施設を集約させた空間とする。陸上競技場周辺は現況の空間構成をそのままに、新たに体育館とスポーツコートを設置する。
- 体育館は、陸上競技場南西側の現況の多目的広場内に、背後に「四季彩花園」を抱えるように配置する。体育館は 45m×25m でバレーボールコートが二面取れる大きさとし、隣接して更衣室や利用受付、倉庫等を有する管理棟（約 550 m<sup>2</sup>）を併設する。体育館の屋上は屋上緑化の庭園とし、「四季彩花園」の斜面途中へ屋上から階段とスロープでアクセスできるようにする。



図 2-8. 体育館周辺拡大図（体育館の屋上緑化イメージ）





- テニスコートとサッカー場の面積が確保できる多目的グラウンドは、ゾーン北側のばら園とその東側延長部（約 30,000 m<sup>2</sup>）を公園区域に取り込んで配置する。拡張部は最大 20mの高低差があるため、テニスコート・グラウンド面の配置は部分的な擁壁等で高低差の解消を図る。

図 2-9. テニスコート、多目的グラウンド造成断面図

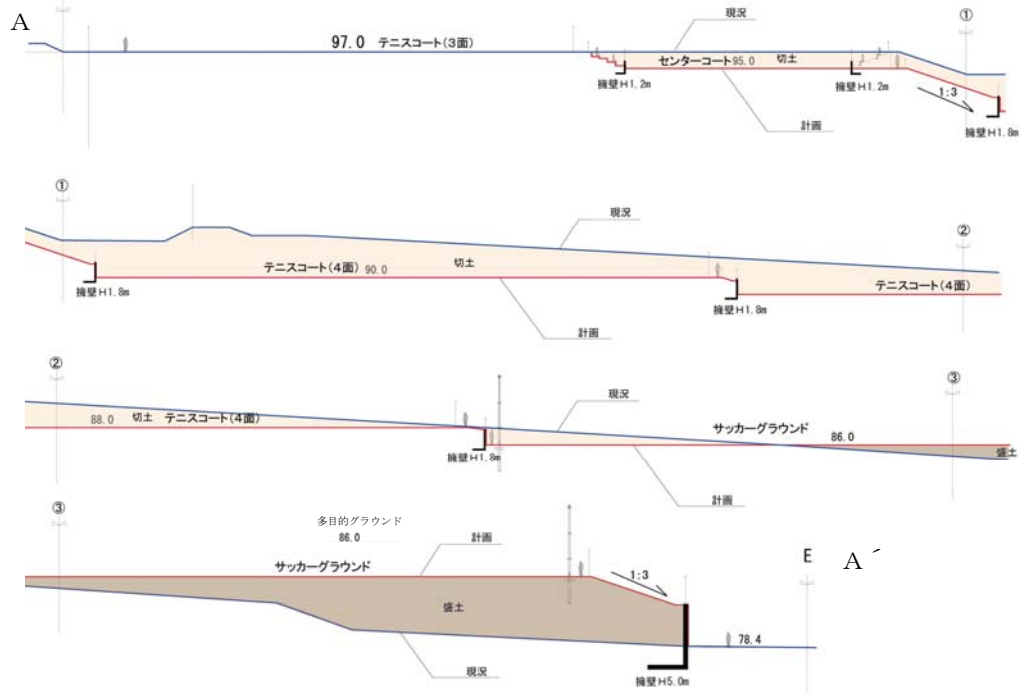
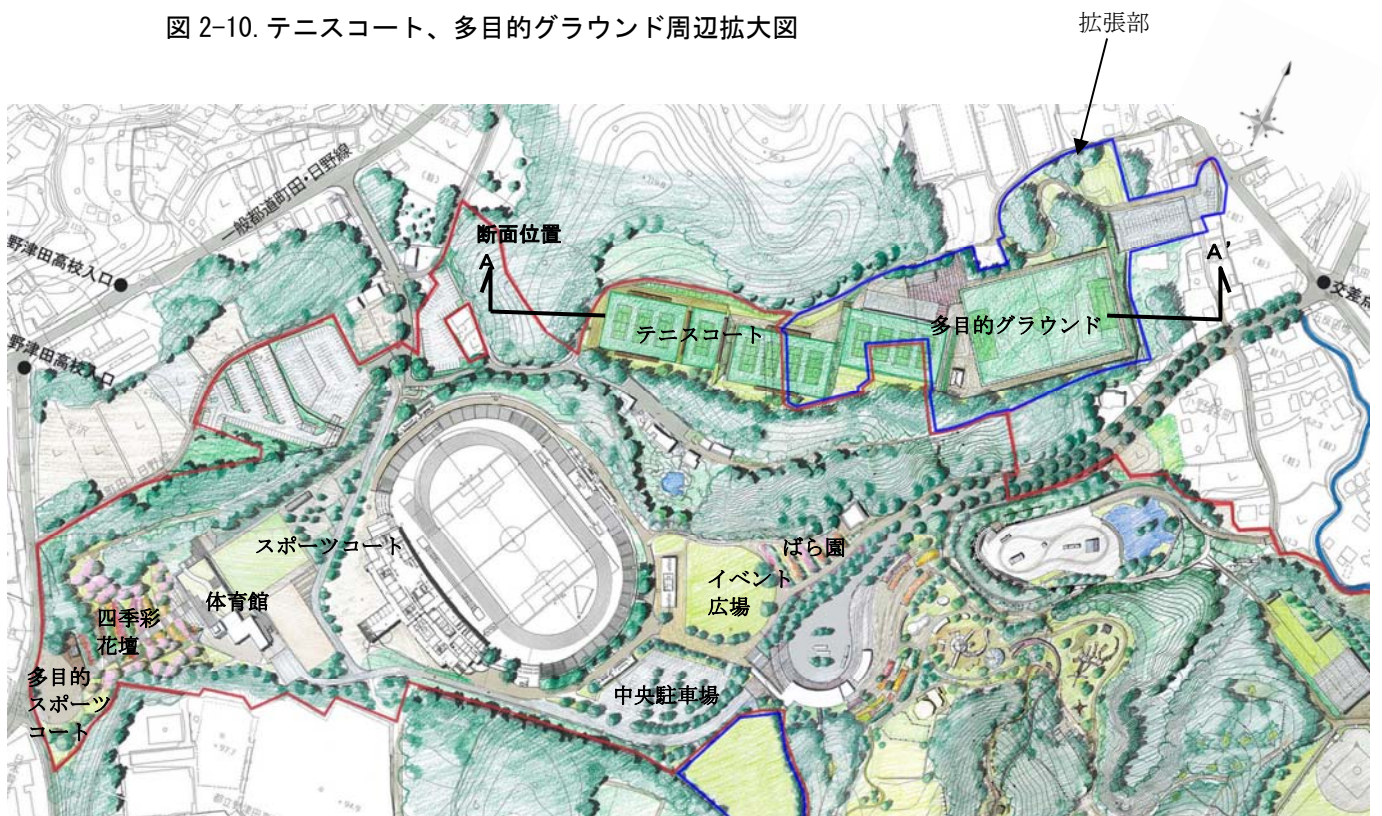


図 2-10. テニスコート、多目的グラウンド周辺拡大図



## (2) 交通アクセス

- 本ゾーンへのアクセスは、通常のパークセンターゾーンからと西口の駐車場を介してアクセスするルートおよび新規に拡張部北側からのルートとする。
- 西駐車場と西第2駐車場が計287台の容量があるため、通常時は西口からのアクセスが主体となり、利用施設の位置によって北口、中央口からのアクセスに分散させるものとする。

## (3) 防災

- 陸上競技場のスタンド棟や体育館は、災害時の一時避難施設や救援物資の備蓄施設としても機能する。特に体育館は前面のスポーツコートなど適度なオープンスペースを伴うため、パークセンターとともに災害支援活動の拠点施設として位置づけられる。

## 3) レクリエーションスポーツゾーン

### (1) 空間構成と施設配置

- 既存の上の原グラウンドは、市民のサッカー練習やスポーツ広場として親しまれているため、観客席やクラブハウスを整備しスポーツ環境を充実させる。また野球場は、夜間照明や管理棟を整備して施設の機能向上を図る
- 雑木林内を巡るマレットゴルフコース、フィールドアーチェリーコースの他、丘陵地の園路を巡るトレイルコースなどゾーンの豊かな自然環境を活かした整備を目指す。
- マレットゴルフは、起伏に富んだ空間や林間なども利用できるため地形や植生を活かしたコース設定とする。またフィールドアーチェリーは、安全性に十分配慮したコース設定を行う必要があるため、一般の散策利用空間と交錯しないよう、散策路等の利用空間と隔離して十分な緩衝帯を確保した林内に設定する。
- 野球場北西側に隣接する疎林と裸地部は、近接する沢の自然に影響がない範囲で面的なスポーツ施設の導入を行い、屋根付運動場と弓道・アーチェリー場を整備する。
- 屋根付運動場は、弓道やアーチェリーの射場となるほか、フットサルや裸足で駆け回れる人工芝の多目的コートとして整備する。また屋根の下は雨天時も含めて、自然観察会やスポーツイベントの会場など、多様な利用・活動空間としてその利用価値は高い。





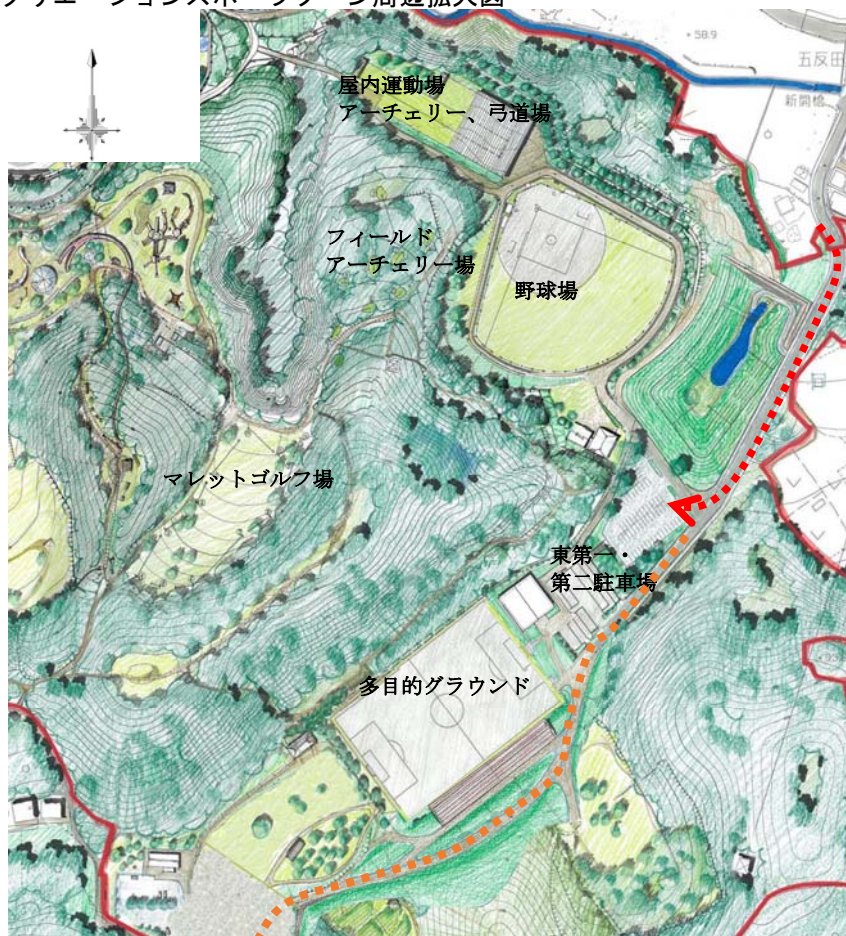
## (2) 交通アクセス・防災計画

- ゾーンへのアクセスは、区域東側の小野路交差点から分岐する既設進入路を利用し、既設駐車場（東第一駐車場、第二駐車場）までをアクセスルートとする。
- Jリーグの試合時や災害時は、上の原グラウンド（多目的グラウンド）までルートを延長して、グラウンドを臨時駐車場や防災活動スペースとして利用する。
- また多目的グラウンドから南入口までのほらっぱ空間も災害時には、通行可能なものとし、区域東側で南北の連絡動線を確保する。

## (3) 環境保全計画

- 本ゾーンは樹林地や草地の緩斜面を利用した整備が基本であり、公園の自然環境を改変することなく保全を前提とした施設の導入（面的な整備ではなく、点と線による利用）を図るものとする。
- マレットゴルフコースやフィールドアーチェリー等のコース設定は、現況地形と樹林等の自然環境そのままに、樹木の間をぬうロープ柵等により誘導する。
- また、利用者の踏圧による雨水流出等に対しては、しがら柵や丸太止め等の流出防止、定期的なコース変更等管理面での対応も必要である。

図 2-11. レクリエーションスポーツゾーン周辺拡大図



#### 4) 人と緑のふれあいゾーン

##### (1) 空間構成と施設配置

- 本ゾーンは、上の原はらっぱの南側端部にネイチャーセンター（野津田自然館＋管理駐車場）を整備して、自然体験・活動の拠点とする。
- ネイチャーセンターは、上の原の自然体験の拠点となる施設とし、季節毎の自然の紹介をセンターのギャラリーで展示したり、自然体験教室でさまざまな自然学習・体験講習などを開催するなど気軽に市民が立ち寄り、野津田の自然を体験できる場所とする。
- 丘陵部は子どもが自然とふれあうための遊び場として整備する。



##### (2) 交通アクセス・防災計画

- ネイチャーセンター周辺は、野津田公園唯一の南側からのアクセスを受けるエントランス空間のため大型車の進入に対応できる転回広場の設置と管理用の駐車スペースを確保する。
- 本ゾーンの南側は、市の中心部からのアクセス道（芝浦街道）とつながるため、災害時には避難ルート・物資供給ルートの受け口としても位置づける。
- パークセンターゾーンとのアクセス路を充実する。
- ゾーン内外の豊富な樹林地は、防災面からも重要な緩衝緑地として活用する。

##### (3) 環境保全計画

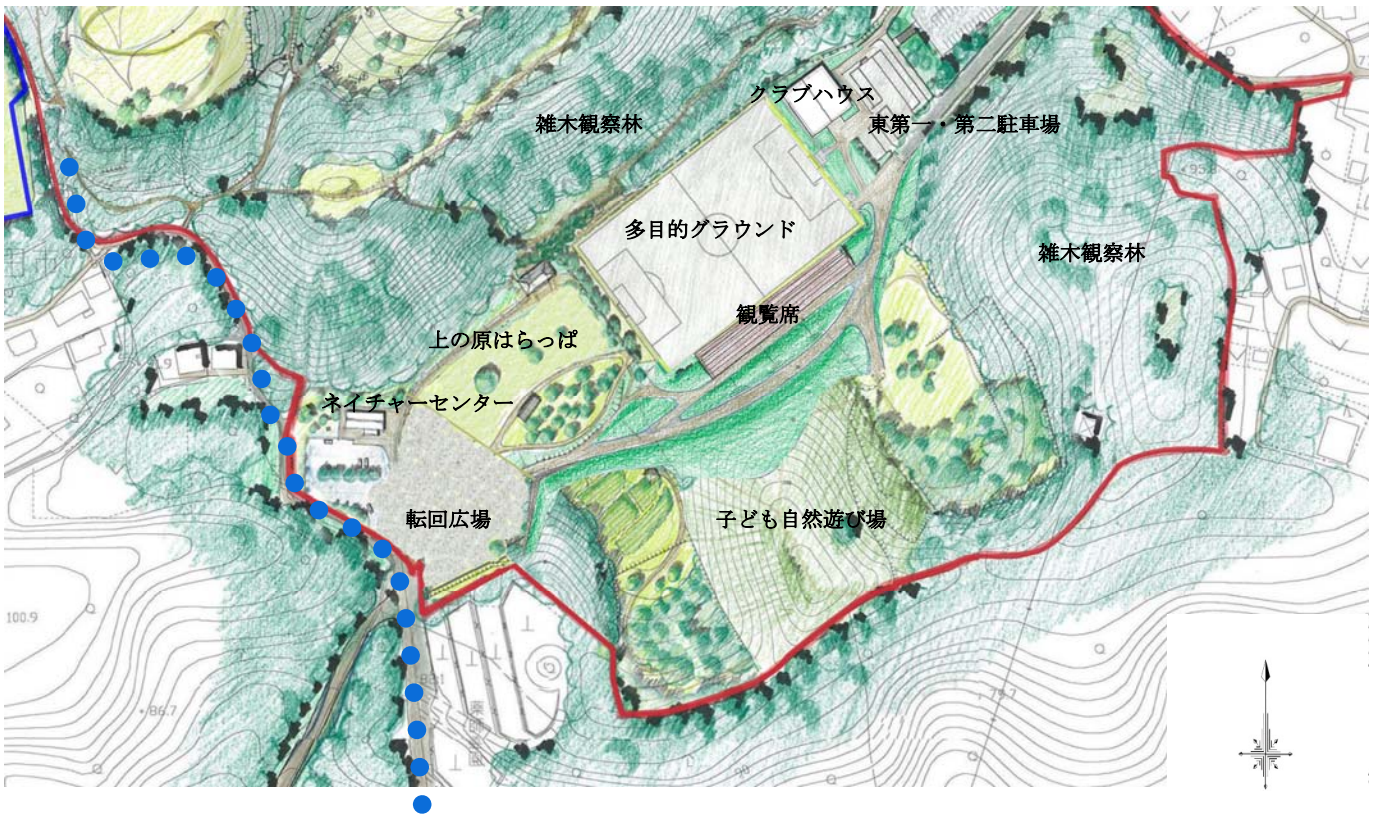
- 上の原はらっぱの北斜面は良好な雑木林が連なり、散策路も整備されているため、これを維持管理しながら雑木観察林として活用する。既存の散策路は間伐材による階段や土留め、手摺や柵など来園者が安全で快適な散策が出来るようにするとともに、定期的な林床管理、樹木の間伐による更新を行う。
- はらっぱ南側の丘陵部は、子どもが自然の中で遊べる施設を整備していく。



■よく管理された里山の雑木林



図 2-12. 人と緑のふれあいゾーン周辺拡大図





7. 概算工事費

名称	規格・形状	数量	単価	金額(千円)	備考
<b>パークセンターゾーン</b>					
<b>エントランスエリア</b>					
パークセンター	RC平屋分棟	1,500	325,000	487,500	
ウェルカムガーデン	ばら園、ロータリー、斜面緑地共	10,000	20,000	200,000	
民衆園・ばら園	村野常右衛門生家前庭	1,400	16,000	22,400	
イベント広場	改修	4,300	2,000	8,600	
中央第一駐車場	改修	4,000	3,000	12,000	
エントランス道路両整備	330m×20m(歩道含む)	6,600	6,000	39,600	
多目的広場	臨時駐車場(芝舗装、整地、照明設備他)	10,000	4,000	40,000	
<b>ファミリーエリア</b>					
わんぱく広場	大型複合遊具十ふわふわドーム	1式	70,000,000	70,000	810,100
	園地整備	3,800	6,000	22,800	
	ローラー滑り台	1式	80,000,000	80,000	
	園地整備	4,000	3,500	14,000	
	アスレチック遊具	1式	40,000,000	40,000	
	飼育舎他建築	500	300,000	150,000	
	園地	3,500	6,000	21,000	
	芝生園地、野外卓	7,600	5,000	38,000	
	スケートパーク	5,000	35,000	175,000	
<b>計</b>					<b>610,800</b>
<b>競技スポーツゾーン</b>					
<b>体育館エリア</b>					
体育館	45×25(屋上緑化)	1,800	406,000	730,800	
スポーツコート(ロングパイル人工芝)		3,300	20,000	66,000	
スポーツコート(全天候)		1,900	18,000	34,200	
園地、園路	幹線園路、体育館前広場他	2,000	12,000	24,000	
<b>計</b>					<b>855,000</b>
<b>斜面緑地エリア</b>					
四季彩花園		4,800	15,000	72,000	
多目的スポーツコート	バス待機所	2,000	8,000	16,000	
<b>計</b>					<b>88,000</b>
<b>テニスコートエリア</b>					
敷地造成	切土(南側斜面林)	10,000	900	9,000	
	盛土(最大12m)	130,000	300	39,000	
土留め擁壁	H10m L=80m	800	122,000	97,600	
砂入り人工芝	芝丈25mm	8,500	15,000	127,500	砂入り人工芝 AS、2層
テニスコート外周フェンス	H3.0m	750	20,000	15,000	
夜間照明	テニスコート専用H6.0m、6基/面	24	800,000	19,200	
壁打ちテニス	コンクリートウオール、舗装	1式	5,000,000	5,000	
サッカー場	ロングパイル人工芝	8,000	20,000	160,000	
防球ネット	H=8.0m、鋼管柱 380m/面	360	300,000	108,000	
夜間照明	H=12.0m、鋼管柱	8	4,000,000	32,000	
その他園路広場整備		3,000	10,000	30,000	
<b>計</b>					<b>642,300</b>
<b>小野路屋敷エリア</b>					
園地改修整備	園路改修、植栽整理他	6,600	4,500	29,700	
<b>計</b>					<b>29,700</b>
<b>レクリエーションスポーツゾーン</b>					
<b>アーチェリー場エリア</b>					
屋根付運動場	鉄骨デック構造	1,250	115,000	143,750	
的場	倉庫付き	200	115,000	23,000	
アーチェリー(弓道)場	30m+90mコース(砂入り人工芝)	2,500	15,000	37,500	
防矢ネット		300	250,000	75,000	
夜間照明	L.E.D	6	1,500,000	9,000	
観覧席増設改修	50m×5段	1	5,000,000	5,000	
野球場エリア	スタンド、防球ネット改修、周辺園地整備	1	50,000,000	50,000	
駐車場園路整備	束第1、第2駐車場	3,500	150,000	525,000	
夜間照明		6	25,000,000	150,000	
フィールドアーチェリー、マレットゴルフエリア	林床整理、コース設定	3,200	1,200	3,840	
	林床整理、コース設定	4,000	2,000	8,000	
	展望広場、散策園路800m他	4,600	1,800	8,280	
キュービクル他電気設備		1	30,000,000	30,000	
受水槽他給水設備		1	25,000,000	25,000	
<b>計</b>					<b>1,093,370</b>
<b>人と緑のふれあいゾーン</b>					
<b>南入口エリア</b>					
ネイチャャーセンター	RC平屋	130	230,000	34,500	
入口広場、駐車場		3,500	8,000	28,000	
転回広場	舗装面積2000㎡、敷地造成・擁壁(平均約H5.0m×L80m)含む	1式	25,000,000	25,000	
原っぱエリア		1	10,000,000	10,000	
	現状草地整理、外柵、園路	1,800	3,000	5,400	
	樹木畑、作業小屋他	1,200	3,500	4,200	
	園路、作業小屋	1,800	1,200	2,160	
樹林地保全有成エリア	園路整備、林床整理、枯れ木・外架植込採、樹林密度調整、落葉広葉樹植込等	18,000	600	10,800	
<b>計</b>					<b>120,060</b>
<b>その他既存樹林保全ゾーン</b>					
樹林保全ゾーン	園路整備、林床整理、枯れ木伐採等	70,000	300	21,000	
<b>計</b>					<b>21,000</b>
<b>直接工事費合計</b>					
<b>諸経費</b>					
<b>工事費計</b>					
<b>消費税</b>					
<b>工事費総計</b>					
				4,270,330	
				2,562,198	
				6,832,528	
				546,602	
				7,379,130	

# 第三章 管理運営計画

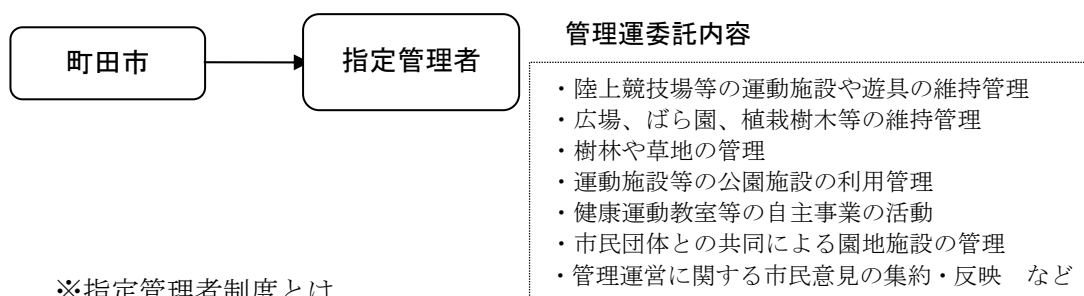
## 1. 現行の管理運営の把握

### 1) 管理運営の現状

野津田公園の管理運営の現状に関して、管理運営の体制・内容を以下に示す。

#### (1) 管理運営の体制

野津田公園では、指定管理者制度による民間業者に公園施設の管理を委託している。指定管理者が担っている業務の内容を下図に示す。

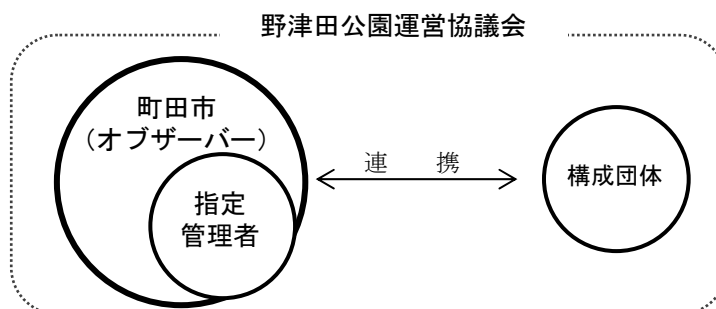


※指定管理者制度とは

公の施設の管理・運営を、民間事業者等に代行させることができる制度。各地方公共団体が、定める条例に従って指定管理者候補の団体を選定し、施設を所有する地方公共団体の議会決議を経ることで、最終的に選ばれた指定管理者に対し、管理運営を委任することができる。(※町田市緑の基本計画より引用)

#### (2) 野津田公園運営協議会で挙げられた課題・要望

野津田公園では、野津田公園運営協議会が設立され、公園の管理運営についての意見交換を実施している。野津田公園運営協議会で挙げられた課題や構成団体からの要望事項について以下に示す。



#### 課題・要望事項

- ・園内の案内板やガイドマップの充実
- ・幅広い利用者層がスポーツに取り組める環境づくり
- ・野津田公園の自然を学ぶ体験プログラムの充実
- ・園内の里山環境や湿性地特有の野草等の再生
- ・園内の樹林や草地の管理に関する連携体制づくり
- ・陸上競技場での大規模イベント開催時の事業運営や施設管理体制の強化
- ・サッカー公式戦開催時の試合観戦者と一般利用者との駐車場利用区分

## 2. 計画の実現に向けて

### 1) マネジメントの内容

#### (1) マネジメントの必要性

公園の魅力を向上させ、その価値を様々な主体と共有していくために公園のマネジメントは欠かせない。マネジメントにあたっては、公園に関わるステークホルダー（ヒト）との関係の中で、ニーズにあった公園施設やプログラム（モノ）を提供することが重要である。また、公園の快適な利用を確保・促進するために、公園の魅力やルール（情報）を発信していくことも求められる。

さらに、管理運営における財源の確保やコストの削減を図ること（カネ）も、持続的な公園のマネジメントを図るために重要となる。このように「ヒト・モノ・カネ・情報」を経営資源として公園のマネジメントに取り組むことが重要である。

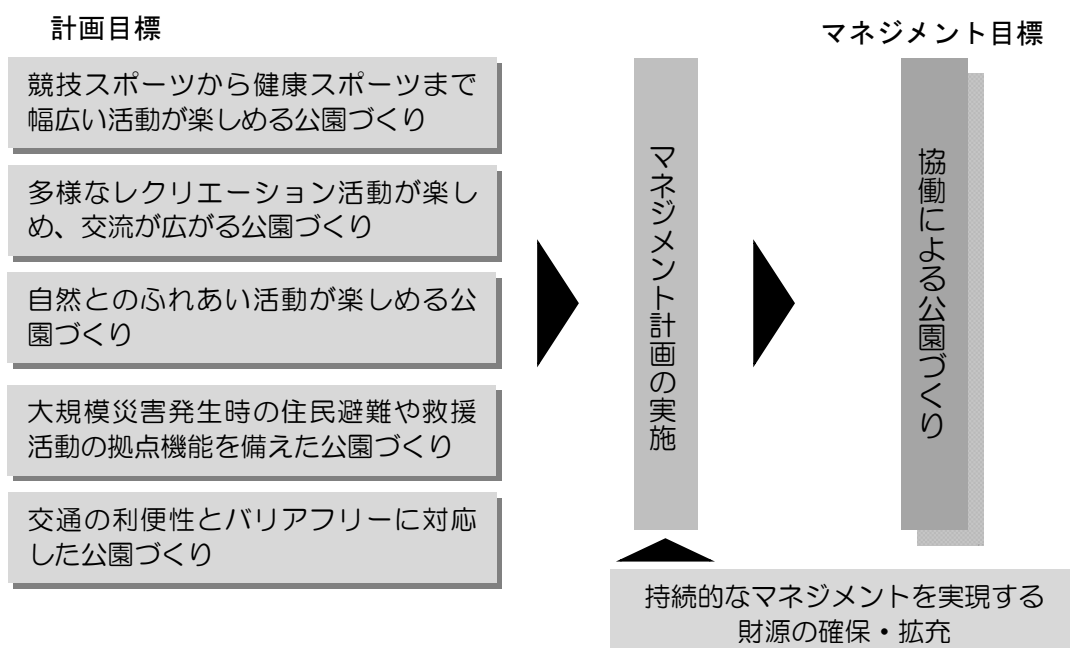
#### 公園の経営資源としての「ヒト・モノ・カネ・情報」の内容

ヒト：利用者、周辺住民、市民団体、企業、専門家 など  
モノ：公園施設、プログラム など  
カネ：維持管理費、施設利用料、占用料・使用料 など  
情報：利用者の要望・苦情、サイン・看板、利用ルール、HP・ブログ など

#### (2) マネジメントの目標・方針

野津田公園のマネジメント目標について以下に示す。本計画の実現に向けて、持続的な公園のマネジメントを図るための財源の確保・拡充を図りつつ、計画目標別整備方針に沿ったマネジメント項目について実施することが重要となる。

#### マネジメント目標：「協働による公園づくり」



### (3) 具体的なマネジメント項目

#### ① 競技スポーツから健康スポーツまで幅広い活動が楽しめる公園づくり

「する」・「観る」・「支える」の考え方に沿い、観戦試合開催時や日常スポーツ利用時に適した環境づくりとスポーツ教育の推進を図る。

- A. スポーツ観戦に適した環境づくり（観る）
  - ・ 観戦試合開催時の利用者導線の設定 など
- B. 日常時のスポーツニーズへの対応（する）
  - ・ スポーツ利用時のルールの策定・改善
  - ・ 運動施設の多目的利用の促進 など
- C. スポーツ教育の推進（支える）
  - ・ スポーツ指導者の育成・活用
  - ・ スポーツに関連した講座・イベントの推進 など

#### ② 多様なレクリエーション活動が楽しめ、交流が広がる公園づくり

それぞれの利用者にとって利用しやすい環境づくりや公園で活用できる場の提供を図る。

- A. 公園を舞台にした活躍の場づくり
  - ・ 公園利用のコミュニティを育むイベント等の推進
  - ・ 利用に関する規制緩和・利用ルールの策定
- B. 活動の受け皿づくり
  - ・ 野津田公園マネジメント協議会（仮称）の設置 など

#### ③ 自然とのふれあい活動が楽しめる公園づくり

野津田公園の里山の風景づくりに向けたプログラムの実施や担い手の育成を図る。

- A. 里の風景づくり
  - ・ 管理作業の体験イベントの企画・実施
  - ・ 循環型公園管理の実践（剪定枝・落ち葉等の堆肥化） など
- B. 担い手の育成支援
  - ・ 技術・知識の習得に向けた講座の企画・実施
  - ・ ボランティアを含めた人材育成
  - ・ 市民団体間のネットワークと情報共有 など

#### ④ 大規模災害発生時の住民避難や救援活動の拠点機能を備えた公園づくり

災害発生時、イベント利用時、日常利用時の各段階で、安全・安心な環境づくりを図る。

- A. 防災・減災対策の推進
  - ・ 災害発生時のオープンスペース確保
  - ・ 災害発生時の対応（避難者の受け入れ、救援物資の提供）シナリオの作成
  - ・ 周辺施設・関係機関・公園管理者間の連携協力の推進 など

## B. 日常時の公園利用の安全性確保

- ・ 美化活動の推進
- ・ 予防保全型の施設の老朽化対策
- ・ 公園施設の安全管理体制の確保
- ・ 利用者に対する安全性確保の呼びかけ、利用ルールの周知徹底 など

## C. イベント利用時を想定した安全対策

- ・ 夜間利用を想定した安全対策の推進
- ・ 混雑時の安全管理体制の構築 など

## ⑤ 交通の利便性とバリアフリーに対応した公園づくり

野津田公園へのアクセス向上と園内のバリアフリー化を図る。

### A. 野津田公園へのアクセスの確保

- ・ 野津田公園へのバスの増設・新設 など

### B. 誰でも利用できる環境づくり

- ・ 利用ガイド・インフォメーション機能の充実（HP・サービスセンター開設）
- ・ 複数言語によるサイン・案内の実施 など

## ⑥ 協働による公園づくり

持続的な公園マネジメントを推進していくため市民、地域、企業による協働公園づくり。

### A. 市民・事業者からの支援・協賛

- ・ スポーツボランティアとの協働
- ・ 公園サポーター制度の活用（有料会員制クラブの設立、有料イベントの実施）
- ・ 公園募金の創設
- ・ 収入還元の見える化 など

### B. 民間事業者の活力・ノウハウの活用

- ・ 民間事業者の事業参画（設置管理許可制度・指定管理者制度・PFI）
- ・ 事業参画へのインセンティブ確保（社会貢献認定、規制緩和など）
- ・ 公園の占用料・使用料等の見直し など



## 2) マネジメントの推進体制

### (1) マネジメントに関わる主体と役割

関係主体	役割
一般市民	公園の利用、要望・意見の提供 など
市民団体	公園の団体利用、公園の管理運営の補助 など
企業	観戦試合・スポーツイベントの開催、スポーツ教育の推進 など
専門家	公園管理に対する助言、マネジメント協議会の運営など
行政	公園の所有、法令管理、各主体間の調整 など
指定管理者	公園の管理運営、行政への管理運営状況の報告 など

### (2) 連携によるマネジメント体制の強化

野津田公園をより一層市民に親しまれる公園、利用する公園とするためには、様々な取組が欠かせない。「自然の中で楽しむ総合スポーツパーク」実現のためのマネジメントの考え方について下記に示す。

#### ① 様々な主体による連携の事例

下表に様々な主体との連携による公園のマネジメントに関する事例を整理した。公園のマネジメントにあたっては、特に市民・地域・企業との連携を図ることが重要となる。

表 3-1. 市民・地域・企業との連携の事例

<b>市民連携【おひさまサンサン事業（つくば市 主催者：つくば市社会福祉協議会）】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民、障がい者、ボランティア団体が協力してスポーツやレクリエーション活動等を行っている他、イベント運営についても市民等がボランティアとして協力している。</li> <li>近年では、「おひさまサンサン生き生きまつり」として高齢者の事業と同時開催を行っている。</li> </ul>
<b>地域連携【公園に子育て施設（新潟県長岡市 千秋が原南公園）】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>冬期の子どもの遊び場を確保するため、信濃川に隣接する地域に千秋が原南公園と全天候型屋根付き施設「子育ての駅千秋」を整備した。</li> <li>子育てについての知識を深めるため、図書館司書、歯科衛生士、言語聴覚士など多彩な講師による「子育て講座」を開催している。</li> </ul>
<b>地域連携【健康増進の取組（広島県坂町）】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域内のいくつかの公園とネットワーク化を図り、大学や地元商工会との連携によるウォーキングイベントの運営を行っている。</li> <li>自然体験と心のリフレッシュができるコース 10km、ベビーカーでも楽しめるコース 2km 等がある。</li> </ul>
<b>企業連携【川崎フロンターレのまちづくり活動】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>川崎市内の 112 の小学校の体育の授業にセカンドティーチャーを派遣し、延べ約 2 万人の子どもたちに指導を行っている</li> <li>シニア層に対しては介護予防という主旨で、フットサル場を活用してさまざまな教室を開講している。</li> </ul>
<b>企業連携【兵庫県三木総合防災公園 屋内テニス場】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>屋内テニス場にネーミングライツを導入し施設の維持管理費にしている。</li> <li>ネーミングライツ料の一部をテニス振興活動の助成費として確保している。</li> </ul>

## ②野津田公園でのプログラム

第二次野津田公園基本計画の実現へ向け、野津田公園での市民・地域・企業との連携によるプログラムの内容を以下に示す。

### A. 市民との連携によるプログラム内容

- ・まちだサポーターズ等、より多くの市民と連携し、市民スポーツ大会や様々なスポーツイベントの運営を支援する体制づくりやプログラムの実施
- ・公園の清掃や植栽活動への協力
- ・公園内の樹林、草地における維持管理やモニタリングの協働実施
- ・自然観察会や工作教室等の開催
- ・ネイチャーセンターの情報発信（季節の見どころ写真の募集やガイドボランティアの育成等）
- ・ばら園での剪定・接ぎ木講習会等の開催
- ・公園施設を活用した園芸セラピー講座\*の開催 など

※園芸セラピー：園芸を手段として心身の状態を改善すること

### B. 地域との連携によるプログラム内容

- ・公園施設の管理状況の把握や浮浪者の居座り防止に向けた公園内の見回りへの協力
- ・公園施設等の開放による子育て世代の交流創出
- ・小野路地域の散策ポイントとして野津田公園の設定
- ・健康ウォーキングイベント等の開催
- ・周辺自治会との協働による防災・避難訓練等の実施など

### C. 企業との連携によるプログラム内容

- ・プロサッカー選手によるサッカー教室やイベントの開催
- ・プロチームのトレーニングコーチやドクター等による市民からの健康相談の受付
- ・ネーミングライツ導入による公園施設の整備
- ・企業による植栽管理や花壇管理

写真1：長寿社会・健康づくりと公園緑地(1)、公園緑地 62(5)

写真2,3：公園緑地事例集、公園緑地 72(5)。

写真4：町田ゼルビアホームページ

写真5：事務局スタッフによる撮影

## 3) 今後のスケジュール

計画の実現に当たっては、本計画の将来像である「自然の中で楽しむ総合スポーツパーク」を目指し、ゾーン毎に掲げた施設について段階的に整備を進める。

当面は、総合スポーツパークとしての価値を一層高めるため、2020年に開催予定である東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地招致を目指し、既存の陸上競技場と併せて必要な人工芝の多目的グラウンドの整備と、施設稼働率が85%を超え、人気の高いテニスコートの整備を進める。



写真1：公園での園芸福祉（大阪府）



写真2：市民によるばら園の管理（長野県坂城町）



写真3：公園を活用したウォーキング大会（広島県坂町）



写真4：町田ゼルビアと子ども達とのスポーツ祭東京2013記念撮影



写真5：ネーミングライツの事例（前橋市）



町田市第二次野津田公園整備基本計画鳥瞰図





## 町田市第二次野津田公園整備基本計画

---

2014年5月

発行：町田市／編集：町田市都市づくり部公園緑地課  
〒194-8520 東京都町田市森野2丁目2番地22  
刊行番号「14-5」